

教科名	国語	科目名	現代の国語	単位数	2 単位
対象学年	第1学年（普通科特別進学コース）		履修形態	必修	
科目の目標	現代文を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に関する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。				
学習内容の概要	<ol style="list-style-type: none"> 話すこと・聞くこと <ul style="list-style-type: none"> 話題について自分の考えを持ち、論理の構成や展開を工夫して意見を述べる。 ものの見方や感じ方を豊かにする。 書くこと <ul style="list-style-type: none"> 授業に自主的に参加しながら、ノートまとめをするなど学習の習慣を身に付ける。 読書やコラムを利用して、自分の考えや感想をまとめる力を豊かにする。 読むこと <ul style="list-style-type: none"> 幅広い内容に関する読書をする習慣を身に付ける。 新聞のコラムを読み、感性を豊かにする。 伝統的な言語文化に関すること <ul style="list-style-type: none"> 言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係に気付き、伝統的な言語文化への興味関心を広げる。 語句の意味、用法や表現の仕方を理解し、語彙を豊かにする。 				
評価の観点・ 評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 評価の観点 <p>【知識及び技能】</p> <ol style="list-style-type: none"> 認識や思考を支える言葉の特徴や使い方に関する事項を理解しているか。 主張と論拠など、話や文章中の情報の扱い方に関する事項を理解しているか。 読書の意義と効用など、我が国の言語文化に関する事項を理解しているか。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ol style="list-style-type: none"> 話題の設定、情報の収集・整理など、話すこと・聞くことに関する事項を理解しているか。 スピーチ・討論・発表など、話すこと・聞くことの言語活動を行っているか。 情報の収集・吟味・内容を検討の上、文章構成や展開の工夫をして表現しているか。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業に積極的に参加し、質問やノートまとめなど真面目に行っているか。 情報を活用して判断し、自らの課題や提出物など確実に遂行しているか。 評価の方法（3つの観点について3段階（A・B・C）で評価する） <ol style="list-style-type: none"> ①定期考査 ②関心・態度 ③課題とノート提出 ④出席状況 				
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> ①家庭学習では、教科書をしっかり読み授業に備える。 ②授業に自主的に参加し、自分の考えを的確に述べる。 ③ノートを効果的にまとめ、語彙や漢字の意味などを理解できるように心掛ける。 ④学習課題ノートや、課題を的確に行う。 ⑤小テストに臨み、基礎的な国語力を身に付ける。 				
教科書・教材等	『精選現代の国語』三省堂 『精選現代の国語 学習課題ノート』三省堂 『新版高校漢字必携』第一学習社 『クリアカラー国語便覧』数研出版 国語辞典				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	(一)「ぐうぜん、うたがう、読書のススメ」「塩トンの読書」	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の「読書の原体験」はどのようなものだったか考える。 ・比喩表現を理解する。 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・音読を通して、美しい言葉の響きを味わおうとしているか。 ・読書の楽しみや意義・効用を理解しているか。 ・内容や構成・論理の展開を的確に捉えているか。
5	(二)「水の東西」「言語は色眼鏡である」	<ul style="list-style-type: none"> ・文化の違いについて、日本と西洋の水の比較から考える。 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・日本と西欧の水に対する感じ方の違いを理解し、考えを深めようとしているか。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を具体的に解釈できているか。
6	(三)「ネットが崩す公私の境」「選べる社会の難しさ」「情報と身体」	<ul style="list-style-type: none"> ・情報操作の具体例を通して筆者が提起する課題を読み取る。 ・文章を分析的に読み、対比構造を用いた論理の展開を読み取る。 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者が述べる、情報と身体の関係について理解しようとしているか。 ・情報やメディアの現状について述べた文章を読み、自分の意見や考え方に反映できているか。
7	(四)「辞書は生きている」「アガルとノボル」	<ul style="list-style-type: none"> ・意味が似ているが使い方が異なる言葉の使い方を理解する。 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・情報やメディアの現状について述べた文章を読み、自分の意見や考え方に反映できているか。 ・インターネットなど電子メディアの普及によって新たに生じた問題を理解しているか。
8	(五)「大切な会話」	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な問題の中から、問題解決に向けて話し合うべき「大切なテーマ」を発見する。 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・具体と抽象の関係を整理して論理構成を把握し、筆者が主張する論点を理解できているか。 ・自分の考えについてスピーチしたり、それを聞いて、同意したり、質問したり、論拠を示して反論したりする活動が出来ているか。
9	(六)「見える文化/見えない文化」「ありのままの世界は見えない」「コインは円形か」	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の言うレトリックとはどのようなものか理解する。 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えについてスピーチしたり、それを聞いて、同意したり、質問したり、論拠を示して反論したりする活動が出来ているか。 ・筆者の主張に従って具体例を言葉で定義し、表現の仕方の工夫につなげられているか。
10	(七)「人がアンドロイドとして甦る未来」「人間にできて機械にできないこと」	<ul style="list-style-type: none"> ・アンドロイドが可能とする特別な魔法とは何かを理解する。 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解できているか。 ・論理的な文章や実用的な文章を読み、本文や資料を引用しながら、自分の考えが論述できるか。
11	(八)「自然をめぐる合意の設計」「マイクロディベートとは」	<ul style="list-style-type: none"> ・「遠景の語り」「近景の語り」の違いを理解する。 ・ディベートの特徴と立論作成のポイントを理解する。 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じて書かれていることを確かめて、文章全体を整え、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の課題を捉えているか。 ・ディベートの特徴を理解しているか。 ・論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫しているか。
12	(九)「生物と無生物のあいだ」「ヒトゲノムの意義」「命はだれのものなのか」	<ul style="list-style-type: none"> ・「生命という名の動的な平衡」とはどういうことか整理する。 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文章の中で使っているか。
1	(十)「国際貢献ではなく国際協力である」「共生社会で求められる相対的よそ者の視点」「グローバリゼーションの光と影」	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒトゲノムは、人類の遺産である」とあるが、なぜ「財産」ではなく「遺産」なのか考える。 ・「ナショナリズムとグローバリゼーションの対立」という現象が存在する理由を考える。 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしているか。 ・推論の仕方を理解し使っているか。 ・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解し、文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、進んで内容や書き手の意図を理解し、考えを深めようとしているか。
2			8	
3			6	

教科名	国語	科目名	現代の国語	単位数	2単位
対象学年	第1学年（進学キャリアコース）		履修形態	必修	
科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力の育成を目指す				
学習内容の概要	<p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>(1)評価の観点</p> <p>a. 知識・技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。</p> <p>b. 思考・判断・表現 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>c. 主体的に学習に取り組む態度 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。</p> <p>(2)評価方法は次の通りとする。 ①定期考査 ②関心・態度 ③課題とノート提出 ④出席状況 ⑤ポートフォリオ</p>				
学習方法	<p>① 家庭学習では、教科書をしっかり読み、難解な語句については辞書で意味・用法を確認し、ノートにまとめる。</p> <p>② 授業ではキーワードに着目し、本文の流れが分かるようにノートをまとめる。</p> <p>③ 単元の終わりには学習課題ノートを使って理解を深める。</p>				
教科書・教材等	<p>『高等学校標準現代の国語』第一学習社 『高等学校標準現代の国語 学習課題集』第一学習社 『クリアカラー国語便覧』数研出版 『チャレンジ常用漢字』第一学習社 国語辞典</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	・なぜ本を読むのか ・世界は謎に満ちている	・読書の効用について理解し、考えを深める。 ・主張と論拠等情報と情報との関係を理解する。	6	・読書の効用について積極的に考え、学習課題に従ってまとめようとしている。 ・粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、要旨をまとめようとしている。
5	・言葉遣いとアイデンティティ ・言語としてのピクトグラム	・言葉と言葉遣いの役割について理解を深める。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。	8	・本文を読んで自分の考えを深め、実社会から求めた題材を用いて検証しようとしている。 ・積極的に写真を伴う文章を読み、解釈したことをまとめて発表しようとしている。
6	・水の東西 ・ステレオタイプの落とし穴	・文化を比較する文章を読み、自分の意見を述べる。 ・主題を説明するための論展開を理解する。	8	・個別の情報を一般化する筆者の論理について表現を工夫してまとめようとしている。 ・本文の構成と論理の展開を捉え、要旨をまとめようとしている。
7	・法律の改正に関わる文章を読み比べる	・情報を相互に関係づけながら内容を解釈する方法を学ぶ。 ・複数の文章を読み理解したことをまとめる。	8	・複数の文章から読み取った情報を粘り強く吟味し、表現の仕方を工夫してまとめようとしている。
8	・「弱いロボット」の誕生	・ロボットと人との関係について考えを深める。	8	・本文を読んでロボットと人間との関係性について考えを深め、表現を工夫して自分の考えを書こうとしている。 ・積極的に比喩や例示の効果を理解し、読み取ったことを説明しようとしている。
9	・人はなぜ仕事をするのか	・「パス」という言葉の意味から、筆者の述べる「仕事」について考察する。	8	・本文の解釈を踏まえて持続可能性について考えを深め、考えたことをまとめようとしている。 ・戦争や紛争について考えを深め、自分の考えを書こうとしている。
10	・イースター島になぜ森がないのか ・黄色い花束	・筆者が提示する人類と生態系のあり方について考察する。 ・筆者の思いについて考えを深める。	8	・論理の展開を粘り強く分析し、これまでの学習を生かして要旨や筆者の主張をまとめようとしている。
11	・【対比】「間」の感覚 ・【具体と抽象】日本語は世界をこのように捉える	・文章を分析的に読み、対比構造を用いた論理の展開、具体例を多用した論理の展開、仮説を積み上げて結論を導く論理の展開について理解する。	8	
12	・【推論】AIは哲学できるか		6	
1	・話し方の工夫・待遇表現・論理的な表現・情報の探索と選択・情報源の明示・スピーチで自分を伝える	・話し言葉と書き言葉、敬語などの表現の特徴を理解し相手や場に応じた表現が選択できるようになる。 ・引用の目的とその効用を理解し活用する。	6	・情報の信頼性や妥当性を確かめ、吟味しようとしている。 ・表現や話し方を工夫し、効果的に話そうとしている。 ・協働して資料や機器を用い、相手の理解を得られる工夫をしようとしている。
2	・合意形成のための話し合いを行う		8	
3	・書き方の基礎レッスン・実用的な手紙文の書き方・社会に対する意見文を書く	・表記・表現のルール、接続表現の用法、比喩などの表現技法、報告文や意見文について理解する。	6	・効果的に書くための方法を積極的に理解し、表現の工夫を身につけようとしている。 ・書いた文章を進んで批評し合い、文章の展開や表現を工夫しようとしている。

教科名	国語	科目名	言語文化	単位数	3単位
対象学年	第1学年(普通科特別進学コース)		履修形態	必修	
科目の目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を高め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。				
学習内容の概要	<ol style="list-style-type: none"> 話すこと・聞くこと <ul style="list-style-type: none"> 話題について自分の考えを持ち、論理の構成や展開を工夫して意見を述べる。 ものの見方や感じ方を豊かにする。 書くこと <ul style="list-style-type: none"> 授業に自主的に参加しながら、ノートをするなど学習の習慣を身に付ける。 読書やコラムを利用して、自分の考えや感想をまとめる力を豊かにする。 読むこと <ul style="list-style-type: none"> 幅広い内容に関する読書をする習慣を身に付ける。 新聞のコラムを読み、感性を豊かにする。 伝統的な言語文化に関すること <ul style="list-style-type: none"> 言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係に気付き、伝統的な言語文化への興味関心を広げる。 語句の意味、用法や表現の仕方を理解し、語彙を豊かにする。 				
評価の観点・ 評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 評価の観点 <p>【知識及び技能】</p> <ol style="list-style-type: none"> 認識や思考を支える言葉の特徴や使い方に関する事項を理解しているか。 主張と論拠など、話や文章中の情報の扱い方に関する事項を理解しているか。 読書の意義と効用など、我が国の言語文化に関する事項を理解しているか。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ol style="list-style-type: none"> 話題の設定、情報の収集・整理など、話すこと・聞くことに関する事項を理解しているか。 スピーチ・討論・発表など、話すこと・聞くことの言語活動を行っているか。 情報の収集・吟味・内容を検討の上、文章構成や展開の工夫をして表現しているか。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業に積極的に参加し、質問やノートまとめなど真面目に行っているか。 情報を活用して判断し、自らの課題や提出物など確実に遂行しているか。 評価の方法(3つの観点について3段階(A・B・C)で評価する) <ol style="list-style-type: none"> ①定期考査 ②関心・態度 ③課題とノート提出 ④出席状況 				
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> ①家庭学習では、教科書をしっかり読み授業に備える。 ②授業に自主的に参加し、自分の考えを的確に述べる。 ③ノートを効果的にまとめ、語彙や漢字の意味などを理解できるように心掛ける。 ④学習課題ノートや、課題を的確に行う。 ⑤小テストに臨み、基礎的な国語力を身に付ける。 				
教科書・教材等	『精選言語文化』三省堂 『クリアカラー国語便覧』数研出版 『新明説総合古典文法』尚文出版 古語辞典・漢和辞典		『精選言語文化 学習課題ノート』三省堂 『古文単語マスター333』数研出版 『必携新明説漢文』尚文出版		

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	古文入門 「児のそら寝」 「絵仏師良秀」 随筆「枕草子」	・古文の読み方を学び、親しみを持つ。 ・文語と口語の違いを学ぶ。	9	・古文を正しく音読できているか。 ・歴史的仮名遣いを理解し、我が国の言語文化に対する関心を高められているか。 ・品詞分解や用言の活用を理解しているか。
5	「徒然草」 漢文入門 「漢文の基本構造と訓読」 「故事成語」	・用言について学ぶ。 ・漢文の性格を学ぶ。 ・漢文に親しみを持つ。 ・漢文の構造と訓読法を学ぶ。	12	・漢文は中国の文語文であることを理解しているか。 ・熟語を通して漢文の構成と訓点を理解しているか。 ・漢文の訓読法を理解し訓点に従って読んでいるか。 ・書き下し文の書き方が習得できているか。 ・口語訳で古代中国人の考え方を理解しているか。
6	近代以降の文章 小説「羅生門」 「レッスン」 詩	・書き下し文を学ぶ。 ・時代背景と登場人物の心理を読み取る。 ・詩の持つ独特の韻律に気付く。	12	・下人の置かれている状況、老婆の考え方、二人の行動や心情の変化、場面の推移を理解し、自分の考えを持つようとしているか。 ・詩の表現や修辞について理解しているか。
7	古文 物語 「竹取物語」	・助動詞について学ぶ。	12	・助動詞の意味・活用・接続を理解し、口語訳の仕方を理解しているか。
8	「伊勢物語」	・助詞「ば」について学ぶ。	12	・助動詞と助詞「ば」の働きを理解しているか。
9	和歌「万葉集・古今集・新古今集」 漢文 史話・漢詩 「鶏鳴狗盗」「臥薪嘗胆」「春暁」	・和歌を詠み味わい、我が国の言語文化について関心を深める。 ・話の内容を理解し、故事成語の意味を学ぶ。	12	・和歌の成り立ちと時代背景を理解しているか。 ・それぞれの和歌の修辞法を読み取り、口語訳し心情を読み取っているか。 ・口語訳をして内容を理解しているか。 ・故事成語が現在どのような意味で使われているか理解しているか。
10	「静夜思」「送元二使安西」「春望」 近代以降の文章 小説二「青が消える」「夢十夜」 短歌と俳句「その子二十」「いくたびも」	・漢詩を読み味わい、中国の古典への関心を高める。 ・漢詩の構成について学ぶ。	12	・訓点に従って音読できているか。 ・書き下し文を正確に書けているか。 ・漢詩のきまりについて理解しているか。 ・漢詩のリズムを理解し読み味わっているか。
11		・異なる作風の小説を比較して、それぞれの作品の特色をつかむ。	12	・舞台設定・構成・描写に注目して小説を読み、フィクションの特性を読み取っているか。 ・小説の表現の仕方・特色をつかみ、自分のものの考え方・感じ方を深めているか。
12	古文 軍記 「平家物語」 日記・紀行「土佐日記」「奥の細道」	・女性に仮託した作者が日記でどのようなことを書こうとしたのかをつかむ。	9	・軍記物の文体の特徴について理解しているか。 ・日記文学の特徴や成立の背景を理解できているか。 ・内容や構成・叙述をもとに人物の心情を捉えられているか。
1	漢文 文章・思想 「雑説」「論語」	・漢文の簡潔で整然とした表現と構成に注意しながら読み味わう。	9	・描かれた状況や心情を考えながら、それぞれの重要なポイントが読み取れているか。
2	近代以降の文章 小説三 「空き缶」	・作品の成立した時代や背景について調べ、作品を様々な角度から捉える。	12	・小説の表現の仕方・特色をつかみ、自分のものの見方・考え方・感じ方を深めているか。 ・現代の社会・文化について批評する能力を身につけているか。
3	「待ち伏せ」 日本語の内と外 「月の語訳」 「日本語の部屋」	・小説の舞台設定・構成・描写に注目する。	9	・小説の場面の背景など様々な角度からそれぞれの作品を考え、その根底にある作者の世界観や工夫を理解できているか。

教科名	国語	科目名	言語文化	単位数	2単位
対象学年	第1学年（進学キャリアコース）		履修形態	必	修
科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力の育成を目指す。				
学習内容の概要	<p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>(1)評価の観点</p> <p>a. 知識・技能 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。</p> <p>b. 思考・判断・表現 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>c. 主体的に学習に取り組む態度 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。</p> <p>(2)評価方法は次の通りとする。 ①定期考査 ②関心・態度 ③課題とノート提出 ④出席状況 ⑤ポートフォリオ</p>				
学習方法	<p>①家庭学習で教科書をしっかり読み授業に備える。</p> <p>②授業に自主的に参加し、自分の考えを的確に述べる。</p> <p>③ノートを効果的にまとめ、語彙や漢字の意味などを理解できるように心掛ける。</p> <p>④学習課題ノートや、課題を的確に行う。</p> <p>⑤小テストに臨み、基礎的な国語力を身に付ける。</p>				
教科書・教材等	<p>『高等学校標準言語文化』第一学習社 『高等学校標準言語文化学習課題集』第一学習社 『クリアカラー国語便覧』数研出版 古語辞典・漢和辞典</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	とんかつ よるこびの歌	・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。	6	・叙述を基に人物像や心情を捉え、まとめようとしている。・粘り強く主人公の心情をたどり、学習課題に沿って説明しようとしている。
5	道程 小景異情	・表現技法を含む近代詩の鑑賞のしかたを理解し、作者の思いを読み取る。	8	・詩の展開や表現の仕方を吟味し、進んで内容や作者の思いを読み取ろうとしている。
6	I was born 二 十億光年の孤独 羅生門 公園	・小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。	8	・人物の行動や心理を読み解き、内容や展開を捉えようとしている。・作品の内容をふまえ、日常のものの見方考え方を深めようとしている。
7			8	
8	清水へ 手毬唄	・短歌と俳句の鑑賞のしかたを理解し、近代歌人の作品を味わう。・表現技法とその効果について理解する。	8	・形式や表現を進んで理解し、学習の見通しをもって文芸に親しもうとしている。・作品に表れている情景や心情を鑑賞し、自分のものの見方、感じ方を豊かにしようとしている。
9	夢十夜 鏡	・登場人物の判断の根拠や人の内面に潜む恐怖とは何かを読み解く。	8	・小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉えている。・暗示や比喩の効果について評価しようとしている。
10	人形浄瑠璃文楽 －三業一体の技 祭りの笛	・伝統芸能や伝統行事に関する文章を読んで、題材や内容、表現の技法などについて興味を広げる。	8	・継承されてきた言語文化に興味をもち、学習課題に沿って、調査した内容を説明資料にまとめようとしている。
11	古文の学習 児のそら寝 三文にて歯二つ かぐや姫 絵仏師良秀	・我が国の言語文化についての理解を深める意義を知る。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉える。・文語動詞の活用を理解する。	8	・言語文化に興味・関心を深め、それを継承していくことについて自覚をもとうとしている。
12	枕草子 伊勢物語 徒然草 平家物語 万葉・古今・新古今 奥の細道	・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。・歌物語や俳句紀行文の特色を理解する。・作品の歴史的・文化的背景を理解する。	6	・初期仮名物語や説話に積極的に親しみ、心情描写の特色、人物描写を捉えようとしている。・用言の活用について理解しようとしている。
1			6	・さまざまな文体や取り上げられた対象に触れ、進んで解釈を深めようとしている。・作品に表れたものの見方・考え方や美意識を積極的に理解し、学習課題に沿って自分の考えを伝え合おうとしている。
2	訓読に親しむ 五十歩百歩 矛盾 蛇足	・漢文を訓読するための基礎知識を習得する。 ・故事成語に触れることにより、語彙を豊かにする。	8	・これからの学習に見通しをもって、漢文訓読の基礎知識を積極的に身につけようとしている。
		・漢詩のきまりを理解する。		・我が国の言語文化に大きな影響を与えた漢文に興味・関心を深め、語彙量を増やそうとしている。
	唐詩の世界			・漢詩のきまりを理解し鑑賞しようとしている。・中国文化との関係に理解を深めている。
3	日本の漢詩 鶏口牛後 完璧 先従隗始 論語	・史伝という文章の種類を踏まえて内容や展開を的確に捉える。 ・日本にも大きな影響を及ぼした『論語』について知り、孔子のものの見方や考え方を理解する。	6	・積極的に史伝を読み、戦国時代の遊説家の説得術を解釈しようとしている。 ・『論語』が我が国の文化に及ぼした影響について理解し、孔子の理想とするところを粘り強く説明しようとしている。

教科名	地理歴史	科目名	地理総合	単位数	2単位
対象学年	1 学年（進学キャリアコース）		履修形態	必修	
科目の目標	地理学習において主体的・対話的で深い学びを実現するために、日本と世界に関する基本的な知識の習得を重点的におこなった上で、社会的諸事象の地理的な見方・考え方に根ざした追究の視点とそれを活かして解決すべき課題を設定し、その課題を追究したり解決したりする活動へと発展させる。				
学習内容の概要	<p>日本地理や世界地理に関する基本的な知識を習得した上で、以下のようなテーマについて主体的に学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地理学習の基本的な技能として、地図の縮尺や方位に注意しながら、地図上の情報を読み解く有用性を理解する。 ・現代世界を構成する基本単位の国家とは何かを理解し、交通・通信の発達によって、生活、社会、産業、国家間の関係がどのように変化したかを時系列で理解する。 ・人々の生活様式の差異を通して、地理的環境が及ぼす影響について学ぶ。 ・世界の自然環境は地域的に大きく異なることを、気候の面からとらえる。 ・世界の気候帯ごとに、どのような特徴があり、どのような生活が営まれているのかを学習する。 ・現在、直面している地球的課題にはどのようなものがあるかに注目し、それらは相互に関連し、地域によって現れ方が異なることを、人口問題、食料問題、居住・都市問題、資源・エネルギー問題、地球環境問題といった具体的な事例を通して理解する。 ・地球環境問題のうち、酸性雨・地球温暖化・森林破壊と生物種の減少・砂漠化を例に学び、世界的な取り組みと地域に応じた取り組みが必要であることを理解する。 				
評価の観点・ 評価の方法	<p>(1) 知識・技能 世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的にしらべまとめる技能を身に付けている。</p> <p>(2) 思考・表現・判断 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 主体的に学習に取り組む態度 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。</p> <p>3つの観点について、定期考査・小テスト（単元テスト等）・出席状況・授業中の態度（質問に対して真剣に考える姿勢等も含む）・課題提出（レポート・ノート等）などを活用し、総合的に評価する。</p>				
学習方法	授業を大切に、ノートは板書事項だけに終わらず、気づいた事・教師の話などメモすることを習慣化する。授業は常に課題・問題意識を持ち積極的に取り組み、質問に対しては真剣に考えるように心がける。プリントなどは単元のまとめとして、基本的な事項の認識・理解を深めるためにもノートとともに整理する。				
教科書・教材等	教科書『地理総合』（第一学習社）／『新詳高等地図』（帝国書院） 副教材『地理総合ノート』（第一学習社） 各種のプリント、配信課題 など				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4	中学の復習	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の都道府県 ・世界の主要な国々 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の都道府県や世界の主要国の名称や位置について正確に理解する。 	
5	第1編 1章 地図や地理情報システムと現代世界 1節 球面上の世界と地図	<ul style="list-style-type: none"> ①目的地への行き方 ②地球上の位置 ③世界の時差 ④世界地図の見方・使い方 ⑤地図から読み取る情報 ⑥デジタル化された地図⑦地理情報システムの活用 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・地球上の位置をあらわすために緯度・経度が定められたことと、地軸の傾きによる季節変化と時差の存在を理解し、時差のしくみについて確認する。 	
6	2節 国家の結びつきとグローバル化する社会	<ul style="list-style-type: none"> ①国家の領域と国境 ②日本の領域とさまざまな領土問題 ③国家をこえた結びつき ④交通機関の発達と縮小する世界 ⑤情報・通信で一体化する世界 ⑥拡大する世界の貿易と物流 ⑦グローバル化と人の移動による結びつき 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・現代世界を構成する基本単位の国家とは何かを理解し、交通・通信の発達によって、生活、社会、産業、国家間の関係がどのように変化したかを時系列で理解する。 	
7・8			8		
9	第2編 国際理解と国際協力 1章 生活・文化の多様性と国際理解	<ul style="list-style-type: none"> ①世界の生活・文化を写真でつかもう ②人々の生活に彩りを与える気候 ③「衣」から見る世界 ④「食」から見る世界 ⑤「住」から見る世界 ⑥暮らしを豊かにする産業 ⑦宗教と人々の暮らし ⑧暮らしを楽しむための文化 ⑨多様性に富んだ世界の人々との共生 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の自然環境は地域的に大きく異なることを、気候の面からとらえる。 ・世界の気候帯ごとに、どのような特徴があり、どのような生活が営まれているのかを学習する 	
10			8		
11			8		
12	2章 地球的課題と国際協力 1節 持続可能な社会を目指して	<ul style="list-style-type: none"> ①持続可能な開発目標(SDGs) ②地球的課題の地理的な側面 2節 すべての人々の尊厳と平等が守られた社会に向けて ①貧困問題 ②人口問題 ③食料問題 ④持続可能な水の利用 ⑤健康・福祉問題 ⑥教育・ジェンダー問題 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・5つのPの枠組みを活用して、持続可能な開発目標(SDGs)の考え方を学び、地理で学習する地球的課題が教科をこえた探究的な課題につながることを理解する。 ・現在、直面している地球的課題にはどのようなものがあるかに注目し、それらは相互に関連し、地域によって現れ方が異なることを、人口問題、食料問題、居住・都市問題、資源・エネルギー問題、地球環境問題といった具体的な事例を通して理解する。 	
1			6		
2			8		
3			6		

教科名	地理歴史	科目名	歴史総合	単位数	2単位
対象学年	1 学年（特別進学コース）		履修形態	必修	
科目の目標	<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。</p>				
学習内容の概要	<p>以下のような観点から、近現代を中心に日本史と世界史とを結びつけて学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校での本格的な歴史学習のスタートの前に地域・世界ごとの概観をつかむ。 ・日本史探究・世界史探究の学習へのつながりを意識し、日本史分野・世界史分野についてバランスよく学習する。また、日本と世界のつながりをつねに意識し、日本の歴史を世界との関係の中でとらえ、また他の国や地域と対比することでその意味をより深く理解する。 ・身近なところに歴史があることや、史資料にもとづいて歴史が叙述されていることを学ぶ。 ・「近代化」「国際秩序の変化や大衆化」「グローバル化」という現象を端的に概観する。特に、近現代は、世界大戦をはじめ、政治や経済、そして伝染病をも伝えてしまう人々の動きまで、世界が一体化を深めて来た時代であることに留意する。 ・歴史学習を通して、自分たちが何者であるかを理解するとともに、国外の様々な背景を持った人たちを理解する基礎を確立する。 				
評価の観点・ 評価の方法	<p>(1) 知識・技能 知識：近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 技能：諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 思考・表現・判断 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 主体的に学習に取り組む態度 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p> <p>3つの観点について、定期考査・小テスト（単元テスト等）・出席状況・授業中の態度（質問に対して真剣に考える姿勢等も含む）・課題提出（レポート・ノート等）などを活用し、総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>授業を大切に、ノートは板書事項だけに終わらず、気づいた事・教師の話などメモすることを習慣化する。授業は常に課題・問題意識を持ち積極的に取り組み、質問に対しては真剣に考えるように心がける。プリントなどは単元のまとめとして、基本的な事項の認識・理解を深めるためにもノートとともに整理する。</p>				
教科書・教材等	<p>教科書『歴史総合 近代から現代へ』（山川出版社） 副教材『歴史総合 近代から現代へ ノート』（山川出版社） 各種プリント、配信課題など</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4	諸地域世界の形成	東アジア／南アジア・東南アジア／西アジア／ヨーロッパ	6	・中国の諸王朝と皇帝による支配について理解。・東南アジア世界が、インドと中国から受けたさまざまな影響を理解。・オリエントでおこった文明と大帝国の興亡を理解。	
5	歴史の扉	歴史と私たち／日本と洋菓子	8	・私たちの生活が、日本や日本周辺の地域および世界の歴史とつながっていることを理解。	
6		台湾における砂糖の生産	8		
7・8	近代化への問い	交通と貿易／産業と人口／権利意識と政治参加や国民の義務／学校教育／労働と家族／移民	8	・さまざまな側面から「近代化」とは何かを考える。	
9	結びつく世界	アジア諸地域の繁栄と日本／ヨーロッパにおける主権国家体制の形成とヨーロッパ人の海外進出	8	・16世紀におけるアジア各地の大帝国の繁栄と、ヨーロッパ諸国のアジア交易への進出を理解。	
10	近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	ヨーロッパ経済の動向と産業革命／アメリカ独立革命とフランス革命 など	8	・大航海時代以降の植民地の獲得によって、ヨーロッパ諸国が重商主義で経済を発展させたことを理解。	
11			8		
12	明治維新と日本の立憲体制	明治維新と諸改革／明治初期の対外関係／自由民権運動と立憲体制	6	・明治新政府が、諸外国と具体的にどのような関係を築こうとしたかを整理。 ・大日本帝国憲法の成立過程を理解し、その下で成立した制度や諸法典の内容を理解。	
1	帝国主義の展開とアジア	条約改正と日清戦争／日本の産業革命と教育の普及／帝国主義と列強の展開 など	6	・明治政府の条約改正の展開が、清を中心とした東アジアの国際関係にどのような影響を与えたのか理解。・帝国主義について、イギリス・フランス・ドイツ・ロシア・アメリカのそれぞれの経済・政治上の動向を整理。	
2			8		
	近代化と現代的な諸課題	自由・制限／開発・保全		・自由・制限／開発・安全の観点から、現代的な諸課題に関わる近代化の歴史を理解。	
3	国際秩序の変化や大衆化への問い	国際関係の緊密化／アメリカ合衆国とソ連の台頭 など	6	・戦争や交易における結びつきの変化が国際秩序の変化や大衆化の重要な側面であることを理解。	

教科名	地理歴史	科目名	歴史総合	単位数	2単位
対象学年	1学年（進学キャリアコース）		履修形態	必修	
科目の目標	<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することをめざす。</p>				
学習内容の概要	<p>以下のような観点から、近現代を中心に日本史と世界史とを結びつけて学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校での本格的な歴史学習のスタートの前に地域・世界ごとの概観をつかむ。 ・日本史探究・世界史探究の学習へのつながりを意識し、日本史分野・世界史分野についてバランスよく学習する。また、日本と世界のつながりをつねに意識し、日本の歴史を世界との関係の中でとらえ、また他の国や地域と対比することでその意味をより深く理解する。 ・身近なところに歴史があることや、史資料にもとづいて歴史が叙述されていることを学ぶ。 ・「近代化」「国際秩序の変化や大衆化」「グローバル化」という現象を端的に概観する。特に、近現代は、世界大戦をはじめ、政治や経済、そして伝染病をも伝えてしまう人々の動きまで、世界が一体化を深めて来た時代であることに留意する。 ・歴史学習を通して、自分たちが何者であるかを理解するとともに、国外の様々な背景を持った人たちを理解する基礎を確立する。 				
評価の観点・ 評価の方法	<p>(1) 知識・技能 知識：近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 技能：諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 思考・表現・判断 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 主体的に学習に取り組む態度 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p> <p>3つの観点について、定期考査・小テスト（単元テスト等）・出席状況・授業中の態度（質問に対して真剣に考える姿勢等も含む）・課題提出（レポート・ノート等）などを活用し、総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>授業を大切に、ノートは板書事項だけに終わらず、気づいた事・教師の話などメモすることを習慣化する。授業は常に課題・問題意識を持ち積極的に取り組み、質問に対しては真剣に考えるように心がける。プリントなどは単元のまとめとして、基本的な事項の認識・理解を深めるためにもノートとともに整理する。</p>				
教科書・教材等	<p>教科書『わたしたちの歴史 日本から世界へ』（山川出版社） 副教材『わたしたちの歴史 日本から世界へ ノート』（山川出版社） 各種プリント、配信課題など</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4	歴史の舞台	東アジア／南アジア・東南アジア／西アジア／ヨーロッパ／アメリカ／アフリカ	6	<ul style="list-style-type: none"> ・農耕民と遊牧民の関係のなかで中国の歴史が展開してきたことを理解 ・東南アジアの風土と多様性を理解 ・西アジア、ヨーロッパ、アメリカ大陸およびアフリカ大陸の地域区分と諸地域の概要を理解 	
5	第 1 部 近代化と私たち	近代化への問い	8	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな側面から「近代化」とは何かを考える。 	
6		18 世紀の世界とアジア／産業革命／アヘン戦争と日本／日本の開国／日本開国期の国際情勢／開国後の日本社会／市民革命と国民統合／明治維新／富国強兵と文明開化 など	8	<ul style="list-style-type: none"> ・産業革命や労働運動が発生する背景や労働者の要求を理解 ・開国から通商開始に至る経緯を理解 ・江戸時代における経済発展の経緯を理解 ・列強が非欧米世界へ進出する一方で、たがいに対立することもあったことを理解 ・「自由」「平等」という概念が近代自然法思想から生まれたことを理解 	7・8
9		国際秩序の変化や大衆化への問い	8	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな側面から「国際秩序の変化や大衆化」について考える。 	
10	第 2 部 国際秩序の変化や大衆化と私たち	大衆運動の芽ばえ／第一次世界大戦／第一次世界大戦と日本／ロシア革命とその影響／社会運動の広がり／国際協調／アジアの民族運動／大量生産・大量消費社会 など	8	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦開戦直前の国際関係を理解 ・大戦景気、戦後恐慌の特徴について理解 ・社会主義の誕生と工業化の関係について理解 ・人々の権利意識の高まりが参政権の拡大につながったことを理解 ・ヴェルサイユ体制とワシントン体制の特徴を主導した国々の動向とあわせて理解 	
11			8	<ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦後の国際秩序の特徴について理解 	
12			6	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな側面から「グローバル化」とは何かを考える。 	
1	第 3 部 グローバル化と私たち	グローバル化への問い	6	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな側面から「グローバル化」とは何かを考える。 	
2		第三世界の登場／冷戦の展開／55 年体制と安保闘争／高度経済成長の光と影／日本の経済大国化／冷戦の終結／冷戦後の地域紛争／地域統合／現代世界の諸課題 など	8	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア諸地域の独立過程を地域ごとに理解 ・冷戦構造の拡大と核軍備拡大競争の過程を理解 ・55 年体制の内容と意義を理解 ・高度経済成長の過程を理解 	
3			6	<ul style="list-style-type: none"> ・南北問題と南南問題の違いを理解 ・地域紛争解決のために国際連合や日本の果たす役割について理解 	

教科名	公民	科目名	公共	単位数	2単位
対象学年	1学年(特別進学コース)		履修形態	必修	
科目の目標	1. 現代社会の諸問題について、政治・経済・社会・文化・倫理などさまざまな観点から探求し、時事的な問題を切り口に興味関心を高める。 2. 資料の収集方法や活用の仕方、レポートのまとめかた、メディアやネットの利用方法など学び方(スキル)を身につける。 3. 現代社会について多角的観点から考察させるとともに、現代社会と自己との関わりに注目し、いかに生きるかを主体的に考える。				
学習内容の概要	<p>主に国内の政治・経済に関して以下のような観点から学ぶ。</p> <p>①社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現させる。</p> <p>②倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現させる。</p> <p>③公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現させる。</p> <p>④自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現させる。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>(1) 知識・技能 現代社会の基本的問題とその学び方を理解し、その知識資料活用の態度識を身につけている。</p> <p>(2) 思考・表現・判断 役立つ情報を主体的に選択し活用し、追求した考えた過程や結果を様々な方法で適切に表現する。</p> <p>(3) 主体的に学習に取り組む態度 現代社会に生きる人間としてのあり方生き方について自覚を深めようとする。</p> <p>3つの観点について、定期考査・小テスト(単元テスト等)・出席状況・授業中の態度(質問に対して真剣に考える姿勢等も含む)・課題提出(レポート・ノート等)などを活用し、総合的に評価する。</p>				
学習方法	授業を大切にし、ノートは板書事項だけに終わらず、気づいた事・教師の話などメモすることを習慣化する。授業は常に課題・問題意識を持ち積極的に取り組み、質問に対しては真剣に考えるように心がける。プリントなどは単元のまとめとして、基本的な事項の認識・理解を深めるためにもノートとともに整理する。家庭学習については、予習は特に必要ないが、テレビ・インターネット・新聞により国内外の政治・経済・社会の動向に注目する習慣を確立する。				
教科書・教材等	教科書『詳述公共』(実教出版) 副教材『詳述公共マイノート』(実教出版) 各種のプリント 配信課題 など				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4	第1編 第1章	生涯における青年期の意義／青年期と自己形成の課題／職業生活と社会参加／現代社会と現代の生き方	6	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解させる。 ・人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けさせる。 	
5	社会を作る私たち	8			
6	第2章 人間としてよく生きる	ギリシアの思想／宗教の教え／人間の尊重／個人と社会／主体性の確立／他者の尊重／公正な社会	8		
7・8	第3章 社会とは何か	人間の尊厳と平等／自由・権利と責任・義務	8	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の尊厳と平等、個人の尊重、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解させる。 ・個人の尊重、民主主義、法の支配など、公共的な空間における基本的原理について理解させる。 ・法や規範の意義及び役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が維持されていくことについて理解させる。 	
9	第4章 民主国家における基本原理	人権保障の発展と民主政治の成立／国民主権と民主政治の発展／	8		
10	第2編 第1章 日本国憲法の基本的性格	日本国憲法の成立／平和主義とわが国の安全／基本的人権の保障／人権の広がり	8		
11	第2章 日本の政治機構と政治参加	政治機構と国民生活／人権保障と裁判所／地方自治／選挙と政党／政治参加と世論	8	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解させる。 	
12	第3章 現代の経済社会	経済社会の形成と変容／市場のしくみ／現代の企業／経済成長と景気変動／金融機関の働き／政府の役割と財政・租税	6	<ul style="list-style-type: none"> ・公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていることなどについて理解させる。 	
1			6		
2	第4章 経済活動のあり方と国民福祉	日本経済の歩みと近年の課題／中小企業と農業／公害防止と環境保全／消費者問題／労働問題と雇用／社会保障	8	<ul style="list-style-type: none"> 多様な契約及び消費者の権利と責任、職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題について主体的に考えさせる。 	
3			6		

教科名	数学	科目名	数学 I	単位数	3 単位												
対象学年	第 1 学年 (特別進学コース)		履修形態	必修													
科目の目標	方程式と不等式、2 次関数及び図形と計量について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。																
学習内容の概要	<p>(1) 数と式 数を実数まで拡張することの意義を理解し、式の見方を豊かにするとともに、一次不等式及び二次方程式についての理解を深め、それらを活用できるようにする。 ア 式の計算 イ 実数 ウ 二次方程式</p> <p>(2) 二次関数 二次関数について理解し、関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識するとともに、それを具体的な事象の考察や二次不等式を解くことなどに活用できるようにする。 ア 二次関数とそのグラフ イ 二次関数の値の変化 ウ 二次不等式</p> <p>(3) 図形と計量 直角三角形における三角比の意味、それを鈍角まで拡張する意義及び図形の計量の基本的な性質について理解し、角の大きさなどを用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。 ア 三角比 イ 三角形への応用</p> <p>(4) データの分析 統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し応用できる。 ア データの散らばり イ データの相関</p>																
評価の観点・ 評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能</td> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td>主体的に学習に取り組む態度</td> </tr> <tr> <td colspan="2">定期考査</td> <td>授業態度</td> </tr> <tr> <td colspan="2">単元テスト・小テスト</td> <td>提出物・課題</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>独自の授業の要点・コメント</td> </tr> </table> <p>定期考査 4 回【6 月、9 月、11 月、2 月】</p>					知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	定期考査		授業態度	単元テスト・小テスト		提出物・課題			独自の授業の要点・コメント
知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度															
定期考査		授業態度															
単元テスト・小テスト		提出物・課題															
		独自の授業の要点・コメント															
学習方法	<p>基本的事項を理解し、それに従って考えを進める努力と、いろいろな考え方を工夫して試みる大切である。また、読んで分かったつもりや、説明されて分かったつもりでも、いざ自分で解いてみるとどこかでつまずいたりするものである。自分でスムーズに問題が解けるまで努力をしよう。</p> <p>授業中大切だと思うことはノートに記入し、後で思い出せるようノートの取り方を工夫するとよい。また、積極的に先生や友達に質問をして分からないところを放置しないよう心がけよう。</p>																
教科書・教材等	教科書…改訂版 新編数学 I (数研出版株式会社) 副教材…改訂版 3 TRIAL 数学 I + A (数研出版編集部) 増補改訂版 チャート式 解法と演習 数学 I + A (数研出版株式会社)																

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	第1章数と式 第1節式の計算	1 整式の加法・減法	9	<p>整式に関する用語、および整式の加法、減法、乗法について復習する。整式の展開および因数分解について復習し、さらにやや複雑な式の展開・因数分解について学習する。</p> <p>有理数を循環小数で表すことについて考察する。実数の分類、実数の演算について整理する。平方根を含む式の計算を練習し、分母の有理化について理解する。</p> <p>不等式の性質について理解させる。不等式の解について理解を深め、1次不等式、連立1次不等式の解を求められるようにする。絶対値の概念を理解し、絶対値を含む方程式、不等式が解けるようにする。</p> <p>集合の概念について理解を深め、ド・モルガンの法則について学ぶ。有限集合の要素の個数について、共通部分がある場合とない場合に分けて学ぶ。また、命題と条件、必要条件・十分条件、条件と集合の関係について学ぶ。命題の逆、対偶、対偶を利用する証明法、背理法について学び、論理的に考える力をつける。</p> <p>関数の概念を理解させる。平行移動を用いて、2次関数の性質(放物線であるそのグラフの頂点や軸など)を理解する。2次関数の最大値・最小値が求められるようにし、具体的な事柄について応用ができるようにする。グラフに関する条件から、2次関数を決定できるようにする。</p> <p>2次関数のグラフとx軸との共有点の座標を求めることを通して、2次方程式の解の図形的意味を理解する。2次関数のグラフとx軸との共有点の個数と、2次方程式の実数解の個数の関連について理解する。2次関数グラフを用いて、2次不等式の解を求められるようにする。連立不等式を数直線を使って解けるようにする。</p> <p>三角比としてのタンジェント、サイン、コサインの意味を理解し、直角三角形の辺と角との間の基本的な関係を使えるようにする。三角比を鈍角まで拡張し、三角比相互の基本的関係を応用できるようにする。</p> <p>一般の三角形の辺と角との間に成立する正弦定理、余弦定理と、三角形の面積を求める公式を導き、それらを活用できるようにする。平面図形、空間図形における線分の長さ、角の大きさ、面積、体積の計算に三角比を応用する。</p> <p>データをもとに、その集団がどのような特性を有しているのかを整理、代表値、データの散らばり、相関等を考え考察していく。</p>
5	第2節実数	4 実数 5 根号を含む式の計算	1 2	
	第3節1次不等式	6 不等式の性質 7 1次不等式 8 絶対値を含む方程式・不等式		
6	第2章 2次関数 第1節2次関数とグラフ	1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ 3 2次関数の最大・最小 4 2次関数の決定	1 2	
7	第2節2次関数の値の変化	5 2次方程式 6 2次関数とx軸の位置関係 7 2次不等式	1 2	
8	第3節2次方程式と2次不等式			
9	第3章 図形と計量 第1節三角比		1 2	
10	第2節三角形への応用	1 三角比 2 三角比の相互関係 3 三角比の拡張 4 正弦定理 5 余弦定理	1 2	
11	第3節図形の計量	6 正弦定理・余弦定理の応用 7 三角形の面積 8 空間図形への応用	1 2	
12	第4章データの分析 問題演習	1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位数 4 分散と標準偏差 5 データの相関	9	
1		6 表計算ソフトによるデータの分析	9	
2			1 2	
3	問題演習		9	

教科名	数学	科目名	数学 I	単位数	5 単位												
対象学年	第 1 学年 (進学キャリアコース)		履修形態	必修													
科目の目標	数と式, 集合と命題, 2 次関数, 図形と計量及びデータの分析について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに, 数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。																
学習内容の概要	<p>第 1 章 数と式 数を実数まで拡張する意義を理解できるようにする。また, 式を多面的にみたり処理したりするとともに, 1 次不等式を事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>第 2 章 集合と命題 集合と命題に関する基本的な概念を理解し, それを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>第 3 章 2 次関数 2 次関数とそのグラフについて理解し, 2 次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに, それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>第 4 章 図形と計量 三角比の意味やその基本的な性質について理解し, 三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに, それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>第 5 章 データの分析 統計の基本的な考えを理解するとともに, それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。</p>																
評価の観点・評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能</td> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td>主体的に学習に取り組む態度</td> </tr> <tr> <td colspan="2">定期考査</td> <td>授業態度</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>提出物・課題</td> </tr> <tr> <td colspan="2">単元テスト・小テスト</td> <td>独自の授業の要点・コメント</td> </tr> </table>					知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	定期考査		授業態度			提出物・課題	単元テスト・小テスト		独自の授業の要点・コメント
知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度															
定期考査		授業態度															
		提出物・課題															
単元テスト・小テスト		独自の授業の要点・コメント															
学習方法	<p>基本的事項を理解し, それに従って考えを進める努力と, いろいろな考え方を工夫してみることが大切である。</p> <p>ノートは問題解法の筋道が分かるように書き, 別解や重要事項も記入できるよう, 余白も十分に空けておくようにする。問題集用のノートは別冊にしておく。</p> <p>まず, 授業を大切に, 積極的に先生や友達に質問をして分からないところを放置しないようにすることが肝心である。</p> <p>家庭では, 理解不十分だったと思われる問題をひとりですらすら解けるまで再度復習をすること。また, 問題集などを通して理解度をはかり, その日学んだ内容をより確実なものにしておく。</p>																
教科書・教材等	教科書…最新 数学 I (数研出版) 副教材…新課程 教科書傍用 3TRIAL 数学 I+A(デジタル副教材)																

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	第1章 数と式	整式の加法・減法・乗法 展開の公式 式の展開の工夫	15	単項式や多項式、整式、次数、係数、項について理解している。[知] 同類項をまとめて、整式を降べきの順に整理することができる。[技]
5	第1節 数と式	因数分解 実数 根号を含む式の計算	20	指数法則を理解し、計算に用いることができる。[知] [技] 分配法則を用いて、式を展開することができる。また、式の展開の公式を用いて、式を展開することができる。[技] おきかえを利用し、多項式の展開の公式に帰着させることができる。[考] [技]
6	第2節 1次不等式	不等式の性質 1次不等式の解き方 連立不等式 不等式の利用	20	不等号に等号が付いているものと付いていないものの違いを考察しようとする。[関] 不等式の意味を理解し、数量の大小を不等式を用いて表すことができる。[知] [技]
7	第2章 集合と命題	集合と部分集合 共通部分、和集合、補集合 命題と集合	20	集合の要素であるかどうかを判定することができる。[技] 集合をそれぞれの場合に適した形で表すことができる。[考] [技]
8	第3章 2次関数	関数とグラフ $y=ax^2$ のグラフ	20	2次関数の式が2次式で表されることを理解している。[知] 放物線のもつ性質に興味・関心を示し、自ら調べようとする。[関]
9	第1節 2次関数と グラフ	$y=ax^2+q$ のグラフ $y=a(x-p)^2$ のグラフ $y=a(x-p)^2+q$ のグラフ $y=ax^2+bx+c$ のグラフ 2次関数の最大・最小 2次関数の決定	20	2次関数 $y=ax^2+q$ のグラフの頂点、軸について理解している。[知] 2次関数 $y=ax^2+q$ のグラフの特徴を考察することができる。[考] 2次関数 $y=ax^2+q$ のグラフの頂点、軸について理解している。[知]
10	第2節 2次関数と 2次不等式	2次関数のグラフと x 軸の共有点 2次不等式 2次不等式の利用	20	因数分解を用いて、2次方程式を解くことができる。[技] 解の公式を用いて、2次方程式を解くことができる。[技] 三角比の値が角の大きさによって定まることを理解している。[考] 直角三角形において $\tan A$, $\sin A$, $\cos A$ の値を求めることができる。[技]
11	第4章 図形と計量	鋭角の三角比 三角比の利用	20	三角比の表を用いて、三角比の値や角を調べることができる。[技] 直接測ることのできない距離などの求め方を考えようとし、具体的な事象を三角比の問題として見るができる。[関] [考]
12	第1節 三角比	三角比の相互関係 三角比の拡張	15	三角比を使って、距離や高さを求めることができる。[技]
1	第2節 正弦定理・ 余弦定理	正弦定理 余弦定理 三角形の面積	15	
2	第5章 データの分析	データの代表値	20	平均値や最頻値、中央値の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。[知] [技]
3		四分位範囲 相関係数	15	相関係数の定義とその意味を理解し、定義に従ってそれを求めることができる。[技] [知]

教科名	数学	科目名	数学A	単位数	2単位												
対象学年	第1学年(特別進学コース)		履修形態	必修													
科目の目標	<p>場合の数と確率, 図形の性質または整数の性質について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察する能力を養い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。</p>																
学習内容の概要	<p>(1) 場合の数と確率 1 場合の数, 2 確率 集合の要素の個数を求められるようにする。場合の数の意味を理解し, 和の法則・積の法則を利用して, 能率的に場合の数を求められるようにする。順列, 円順列, 重複順列, 組合せ, 同じものを含む順列の意味とその総数を求めることを理解する。また, 確率の基本性質, 余事象の確率を理解し, これらを利用して確率の計算ができるようにする。試行の独立, 反復試行, 条件つき確率の意味の意味を理解し, これを用いて確率の計算ができるようにする。また, それを事象の考察に活用することができるようにする。</p> <p>(2) 図形の性質 1 平面図形, 2 空間図形 三角形や円などの基本的な図形の性質についての理解を深める。円周角の定理とその逆, 円に内接する四角形の性質及び四角形が円に内接するための条件, 円の接線と接点を通る弦とのなす角の性質, 方べきの定理及び2つの円の位置関係について学び, それらを活用できるようにする。平面と直線の位置関係, 平面と直線とのなす角や三垂線の定理などを学ぶ。正多面体が5つしかないことを, オイラーの多面体定理を学びその理由を考える。</p>																
評価の観点・評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能</td> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td>主体的に学習に取り組む態度</td> </tr> <tr> <td colspan="2">定期考査</td> <td>授業態度</td> </tr> <tr> <td colspan="2">単元テスト・小テスト</td> <td>提出物・課題</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>独自の授業の要点・コメント</td> </tr> </table>					知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	定期考査		授業態度	単元テスト・小テスト		提出物・課題			独自の授業の要点・コメント
知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度															
定期考査		授業態度															
単元テスト・小テスト		提出物・課題															
		独自の授業の要点・コメント															
学習方法	<p>基本的事項を理解し, それに従って考えを進める努力と, いろいろな考え方を工夫して試みるのが大切である。</p> <p>ノートは問題解法の筋道が分かるように書き, 別解や重要事項も記入できるよう, 余白も十分に空けておくようにする。問題集用のノートは別冊にしておく。</p> <p>まず, 授業を大切に, 積極的に先生や友達に質問をして分からないところを放置しないようにすることが肝心である。</p> <p>家庭では, 理解不十分だと思われる問題を解けるまで再度復習をすること。また, 問題集などを通して理解度をはかり, その日学んだ内容をより確実なものにしておく。</p>																
教科書・教材等	<p>教科書……新編数学A(数研出版) 副教材……3TRIAL 数学I+A(数研出版編集部) チャート式 解法と演習 数学I+A(数研出版)</p>																

年間授業計画				
月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	第1章 場合の数と確率			有限集合の要素の個数について、共通部分がある場合とない場合に分けて学び、具体的な事象の考察にいかす。和の法則・積の法則、順列、円順列、重複順列について学び、もれなく重なりなく要領よく数える方法を身につける。また組合せや同じものを含む順列について学び、論理的に考える力を養うとともに、記号の有用性を理解する。試行と事象、事象の確率について学び、確率の意味を知り、不確定な事象を数量的にとらえることの有用性を認識する。和事象・積事象、排反事象、余事象、確率の基本性質、確率の加法定理について、集合と関連づけながら学び、事象を数学的に考察し処理できるようにする。独立な試行、反復試行の確率の学習を通して、具体的な事象を数学的に考察し処理する力を伸ばす。
5	第1節 場合の数	1.集合の要素の個数	6	
		2.場合の数	8	
6		3.順列	8	
7	第2節 確率	4.組合せ	8	
8		5.事象と確率		
		6.確率の基本性質	8	
9	第2章 図形の性質			
	第1節 平面図形	7.独立な試行と確率	8	
10		8.条件付き確率 演習	8	
11		1.三角形の辺の比	6	
		2.三角形の外心・内心・重心		
12	第2節 空間図形	3.チェバの定理・メネラウスの定理		
		4.円に内接する四角形	6	
		5.円と直線		
1		6.2つの円		
		7.作図	8	
		8.直線と平面		
2		9.空間図形と多面体 演習	6	
3				

教科名	理科	科目名	生物基礎	単位数	2単位
対象学年	第1学年(特別進学コース)		履修形態	必修	
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について理解し、見通しをもって観察、実験を行い、生物学的に探求する力を養うとともに、生物や生物現象に主体的にかかわり、科学的に探求しようとする態度と生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。				
学習内容の概要	<p>(1) 生物の特徴 生物の多様性と共通性の視点を身につけ、生物の体を構成する共通の基本単位である細胞を構造と働きを学び、生命活動に必要なエネルギー(ATP)と代謝について理解する。遺伝物質であるDNAの特徴を理解する。</p> <p>(2) ヒトの体の調節 ヒトの体の調節について探求し、生物には体内環境を維持する仕組みがあることを理解し、体内環境の維持と健康との関係について認識する。</p> <p>(3) 生物の多様性と生態系 生物の多様性と生態系について探求し、生態系の成り立ちを理解し、その保全の重要性について認識する。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価の観点は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習する態度」の3項目とする。この3点について3段階(A・B・C)で評価し、3観点の評価から総合的に評定する。</p> <p>評価の方法は定期考査、小テスト、出席状況、課題・ノート等の提出物、授業態度等により総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>教科書の解説と問題集を用いての問題演習等。 身近な事象や視聴覚教材を用いた学習。 個々の進学・進路に応じた演習。 小テストや課題を活用した反復学習による基礎力の定着</p>				
教科書・教材等	<p>教科書 「新編 生物基礎」(東京書籍) 問題集</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4	探究活動の仕方	探究活動の仕方について学ぶ。	6	フックによる細胞発見の過程を参考にし てあてはめ、探究活動の仕方を理解する。	
5	生物の共通性と多様性	生物は多様であるが共通性をもっていることを理解し、細胞および生物の構造について学ぶ。	8	現存する多様な生物には共通性と多様性があり、真核生物と原核生物、単細胞生物と多細胞生物の共通点と相違点を細胞の構造などから理解する。	
6	生物とエネルギー	生命活動に必要なエネルギーの出入りと、生物に必要な物質の合成や分解について学ぶ。	8	生命活動に必要なエネルギーは呼吸により有機物から取り出され、有機物は光合成により光エネルギーを用いてつくられることを理解する。	
7	遺伝情報と DNA	遺伝情報を担う物質としての DNA の特徴について理解する。	8	遺伝子の本体が DNA であること、DNA が二重らせん構造であること、さらに個々の遺伝子はゲノムを構成する DNA の一部であることを理解する。	
8 9	遺伝情報の分配	DNA が複製され分配されることにより、遺伝情報が伝えられることを理解する。	8	体細胞分裂前の DNA の複製と細胞周期における DNA 量の変化を理解する。	
10	遺伝情報とタンパク質の合成	DNA の情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解する。	8	遺伝情報と RNA の関係を理解し、遺伝情報の発現とタンパク質合成の関係を理解する。また、タンパク質が酵素として生命現象を支えていることを理解する。	
11	体内環境と恒常性	ヒトの体の調節の仕組みを理解する。	8	循環系とその働き、腎臓や肝臓の働きなどで、生物の体内環境が保たれていることを理解する。	
12	神経系と内分泌による調節	体内環境の維持に自律神経とホルモンがかかわっていることを理解する。	6	自律神経とホルモンの共同作用で体内環境の恒常性が調節されていることを理解する。	
1	免疫	免疫とそれにかかわる物質や細胞の働きについて理解する。	6	細胞性免疫と体液性免疫を理解し、病原菌などの異物を認識、排除して体内環境を保つ仕組みを理解する。	
2	植生の多様性と分布	陸上には様々な植生が見られ、植生には長期的に移り変わっていくことを理解し、様々なバイオームが成立していることを学ぶ。	8	さまざまな植生とその違いを理解し、遷移のメカニズム、気温と降水量の違いにより、地球上にはさまざまなバイオームが成立していることを理解する。	
3	生態系とその保全	生態系は、物質の循環とともにエネルギーが移動することを学び、生態系のバランスについての理解と生態系保全の重要性を認識する。	6	生態系では、物質が循環するとともにエネルギーが移動することを理解し、生態系のバランスと保全の重要性を理解する。	

教科名	理科	科目名	生物基礎	単位数	2単位
対象学年	第1学年(進学キャリアコース)		履修形態	必修	
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について理解し、見通しをもって観察、実験を行い、生物学的に探究する力を養うとともに、生物や生物現象に主体的にかかわり、科学的に探究しようとする態度と生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。				
学習内容の概要	<p>(1) 生物の特徴 生物の多様性と共通性の視点を身につけ、生物の体を構成する共通の基本単位である細胞を構造と働きを学び、生命活動に必要なエネルギー(ATP)と代謝について理解する。遺伝物質であるDNAの特徴と働きを理解する。</p> <p>(2) ヒトの体の調節 ヒトの体の調節について探究し、生物には体内環境を維持する仕組みがあることを理解し、体内環境の維持と健康との関係について認識する。</p> <p>(3) 生物の多様性と生態系 生物の多様性と生態系について探究し、生態系の成り立ちを理解し、その保全の重要性について認識する。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価の観点は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習する態度」の3項目とする。この3点について3段階(A・B・C)で評価し、3観点の評価から総合的に評定する。</p> <p>評価の方法は定期考査、出席状況、課題・ノート等の提出物、レポート、授業態度等により総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>教科書の解説と問題集を用いての問題演習等。 身近な事象や視聴覚教材を用いた学習。 個々の進学・進路に応じた演習。 小テストや課題を活用した反復学習による基礎力の定着</p>				
教科書・教材等	<p>教科書 「新編 生物基礎」(東京書籍) 問題集 「ニューアチーブ生物基礎 書籍+デジタルワークブック」(東京書籍)</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4	生物の共通性と多様性	生物は多様であるが共通性をもっていることを理解し、細胞および生物の構造について学ぶ。	6	現存する多様な生物には共通性と多様性があり、真核生物と原核生物、単細胞生物と多細胞生物の共通点と相違点を細胞の構造などから理解する。	
5	生物とエネルギー	生命活動に必要なエネルギーの出入りと、生物に必要な物質の合成や分解について学ぶ。	8	生命活動に必要なエネルギーは呼吸により有機物から取り出され、有機物は光合成により光エネルギーを用いてつくられることを理解する。	
6	遺伝情報と DNA	遺伝情報を担う物質としての DNA の特徴について理解する。	8	遺伝子の本体が DNA であること、DNA が二重らせん構造であること、さらに個々の遺伝子はゲノムを構成する DNA の一部であることを理解する。	
7	遺伝情報の分配	DNA が複製され分配されることにより、遺伝情報が伝えられることを理解する。	8	体細胞分裂前の DNA の複製と細胞周期における DNA 量の変化を理解する。	
8					
9	遺伝情報とタンパク質の合成	DNA の情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解する。	8	遺伝情報と RNA の関係を理解し、遺伝情報の発現とタンパク質合成の関係を理解する。また、タンパク質が酵素として生命現象を支えていることを理解する。	
10	体内環境と恒常性	ヒトの体の調節の仕組みを理解する。	8	循環系とその働き、腎臓や肝臓の働きなどで、ヒトの体内環境が保たれていることを理解する。	
11	神経系と内分泌による調節	体内環境の維持に自律神経とホルモンがかかわっていることを理解する。	8	自律神経とホルモンの共同作用で体内環境の恒常性が調節されていることを理解する。	
12	免疫	免疫とそれにかかわる物質や細胞の働きについて理解する。	6	細胞性免疫と体液性免疫を理解し、病原菌などの異物を認識、排除して体内環境を保つ仕組みを理解する。	
1	植生の多様性と分布	陸上には様々な植生が見られ、植生には長期的に移り変わっていくことを理解し、様々なバイオームが成立していることを学ぶ。	6	さまざまな植生とその違いを理解し、遷移のメカニズム、気温と降水量の違いにより、地球上にはさまざまなバイオームが成立していることを理解する。	
2	生態系とその保全	生態系は、物質の循環とともにエネルギーが移動することを学び、生態系のバランスについての理解と生態系保全の重要性を認識する。	8	生態系では、物質が循環するとともにエネルギーが移動することを理解し、生態系のバランスと保全の重要性を理解する。	
3			6		

教科名	理科	科目名	物理基礎	単位数	2単位
対象学年	第1学年（特別進学コース）		履修形態	必修	
科目の目標	身近に生じる物理的な現象・事物についての観察、実験などを通して考察し、基本的な原理・法則を理解するとともに、科学的に探究する態度や自然観を育成する。				
学習内容の概要	<p>(1) 物体の運動とエネルギー 日常に起こる物体の運動に関する共通した法則性や、その変化について力との関係などを法則とともに探究する。</p> <p>(2) さまざまな物理現象とエネルギー</p> <p>①熱 物理における仕事とエネルギーの関係や温度の定義、熱の特徴とエネルギー量の測定、算出、さらにエネルギーどうしの変換などを法則とともに探究する。</p> <p>②波 いろいろな波についての特徴と共通性を考える。それらの伝わり方や進み方、反射などを、それぞれの現象をもとに探究し、理解する。</p> <p>③電気・エネルギーの利用 日常生活の中で利用している電気や磁気の性質を観察や実験で確かめ、その法則や原理を理解し、その応用や日常生活とのかかわりについて学習する。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価の観点は、「知識・技能」「思考・表現・判断」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点について、3段階（A・B・C）で評価し、3観点の評価から総合的に判断する。</p> <p>「知識・技能」は、定期考査、小テスト、課題、「思考・表現・判断」は、定期考査、小テスト、レポート、「主体的に取り組む態度」は、課題・レポートなどで評価をする。</p> <p>評価は定期考査、小テスト、出席状況、課題・レポート等の提出物、授業態度等によって総合的に行う。</p>				
学習方法	教科書の解説と問題集を用いたセンター試験対応の問題演習等。 身近な事象や視聴覚教材を用いた学習。				
教科書・教材等	教科書 「新編 物理基礎」（東京書籍） 問題集 「ニューアチーブ物理基礎 書籍+デジタルワークブック」（東京書籍）				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	物体の運動	速度 加速度 落下運動	6	速度と加速度の違い、相対的な速度表現、重力と落下の運動の関係を数式で表し計算する。
5	力の働きとつり合い	さまざまな力 力の合成・分解とつりあい	8	いろいろな力の性質とその扱い方を理解し、運動方程式により、力が働くときの物体の運動を解析する。
6				
7	運動の法則	運動の3法則 運動方程式の利用 抵抗力を受ける運動	8	仕事とその原理、仕事率の理解と道具の意義を考える。
8	仕事と力学的エネルギー	仕事と仕事率 運動エネルギー 位置エネルギー 力学的エネルギー	8	運動・位置エネルギーと仕事の関係を理解し、計算に慣れる。また、その保存の法則を理解する。
9				
10				
10	熱とエネルギー	熱と温度 エネルギーの変換と保存 気体の圧力・温度・体積	8	熱による温度変化・状態変化と仕事の関係を把握する。気体の変化と熱力学法則及び電気と熱エネルギーの変換と保存の法則を考察する。
11	波の性質	波の表し方とその要素 波の重ねあわせ	8	波の性質、横波と縦波の違い、重ねあわせの原理を理解し波動の変化を探る。
12	音波	音の伝わり方 物体の振動	6	音の速さ、弦の振動、反射、干渉、うなり、共振、共鳴などを波としての音で考える。
1	静電気と電流	静電気 電流と抵抗 直流回路 電気エネルギー	6	静電気とその発生、電荷と電気量、オームの法則、陰極線と電子の流れを関連して学習する。
2				
2	電流と磁場	磁場 モーターと発電機 交流と電磁波	8	磁石と磁場、磁力線、電磁石と電流モーターの仕組みなどの関係を調べる。交流と直流の違い、交流電圧、相互誘導とトランスの仕組みなどを理解する。
3	エネルギーとその利用	太陽エネルギーと化石燃料 原子力エネルギー	6	太陽エネルギーの直接的・間接的利用と、原子核から発生するエネルギーについて理解する。

教科名	保健体育	科目名	体育 (体育)	単位数	2 単位
対象学年	第 1 学年 (普通科)		履修形態	必修	
科目の目標	心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>「運動」</p> <p>① 集団行動</p> <p>② 体づくり運動</p> <p>③ 球技</p> <p>運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。</p> <p>「体育理論」</p> <p>① スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴</p> <p>② 運動やスポーツの効果的な学習の仕方</p> <p>③ 豊かなスポーツライフの設計の仕方</p> <p>理論と実践の一体化を図ることによって生涯にわたって計画的に運動に親しむことができるようになる。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価のポイント</p> <p>① 知識・技能・・・各単位の実技テスト・自己評価出欠</p> <p>② 思考・判断・・・安全への配慮・健康管理・</p> <p>③ 主体的に取り組む態度・・・技術の向上・積極的な授業への参加・集団への協力・分析する力</p> <p>評価は各内容の目標に対する絶対評価を主として、個人の能力に応じた各運動・理論における個人内容評価を加味し、総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>① 教師主導による実技を中心とした学習</p> <p>② グループ学習 (場合によっては習熟度別学習を行う)</p>				
教科書・教材等	現代高等保健体育 (大修館)				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	オリエンテーション	体育種目説明、授業時の注意事項	1	学校の教育活動全体や授業において、集団として必要な行動の仕方が実践できるようにする。
	集団行動	集合・整頓・列の増減	2	集団が一定の行動の仕方にしたがって、安全に、しかも能率的に行動することが重要であることを知る。
5	体づくり運動	トレーニング・ストレッチ体操・徒手体操	4	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、自己の体力や生活に応じた継続的な運動の計画を立てて実生活に役立てる。
	新体力テスト	全9種目	7	正しい測定の方法を理解し、安全に留意してできるようにする。自己の体に関心を持ち、体力に応じた課題を持ち実践できるようにする。
6	長距離	ペース走・駅伝	8	記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わう。
7	球技	バドミントン	12	状況に応じたシャトルの操作や安定したラケットの操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすること。
8		バレーボール	12	状況に応じて安定したボールの操作を行い、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。
9	校内体育大会種目練習	(バレー、ドッジボール、大縄)	10	自己の役割を良く理解し、責任を果たし、互いに協力できるようにする。
10		卓球	12	体力増進とともに、安全に気を配りながら運動を行うことができる。
11		バスケットボール	12	ゲームの特性を活かし、学習段階に応じた作戦を立て、防御から攻撃への連携を活かしたゲームができるようにする。
12				ゲームが円滑に楽しくできるよう、ドリブルやシュートの練習を繰り返し行う。
1				個人技能や集団技能を活用して、学習段階に応じた作戦を立てゲームをする。
2				
3				

教科名	保健体育	科目名	武道	単位数	1単位
対象学年	第1学年(全)		履修形態	必修	
科目の目標	<p>空手の技ができる楽しさや喜びを味わい、様々な基本となる技を用いて、基本型やその他の型を演武することができるようになる。また、積極的に空手に取り組むとともに、相手を尊重し、技を当てないなど健康・安全に気を配ることができるようにする。</p> <p>礼儀作法を学び、普段の生活からも</p>				
学習内容の概要	<p>「運動」</p> <p>① 姿勢 ② 礼儀作法 ③ 突き ④ 蹴り ⑤ 下段受け ⑥ 上段受け ⑦ 基本型① ⑧ 基本型② ⑨ 型の発表</p> <p>武道は、我が国の伝統的な運動文化であり、1対1で相手と攻防する対人競技である。単に勝敗を競うだけでなく、日本の伝統的な考え方や相手を尊重する態度を重視して行うスポーツである。特に礼儀作法を重視し、競技結果にかかわらず、自己の感情を制御するとともに、相手を理解することで精神的修養をはかることができる。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>① 知識・技能・・・基本となる技を用いて、基本型を演武することができる</p> <p>② 思考・判断・・・健康寿命を伸ばす要因が何かを考え、健康的な生活を送れる思考や判断が出来るようになる。</p> <p>② 運動の技能・知識・理解・・・練習の取り組み方や運動の取り組み方を工夫している。空手の特性や成り立ちに関心を持ち、技ができる楽しさや喜びを味わうように進んで取り組もうとする。</p> <p>評価は、各内容の目標に対する絶対評価を主として、個人の能力に応じた各運動・理論における個人内容評価を加味し、総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>教師主導による一斉授業とし、実技を中心とした学習。</p> <p>グループ学習。</p>				
教科書・教材等	<p>空手道指導の手引</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	オリエンテーション 立ち方	体育種目説明、授業時の注意事項	1	学校の教育活動全体や授業において、集団として必要な行動の仕方が実践できるようにする。
	礼儀作法	閉足立ち、結び立ち、平行立ち、外八字立ち 座礼、立礼	2 2	足の開き方だけではなく、全体の姿勢及び視線も意識させる。 相手に対して気持ちを込めて礼をする。
5	突き	その場突き、順突き、逆突き	3	足の出し方及び気合を入れるように意識する。
	蹴り	前蹴り、横蹴り	3	つま先の向き、足の振り上げ、蹴り足と引き足の形の意識 相手が居ることを意識して行う。
6	受け	下段受け、外受け、上段受け、手刀受け、	6	仲間と協力しながら、意識するポイントや気合の入れ方などを工夫させる。 相手が居る意識を持たせることでより実践的な形になることを理解し実践させる。 仲間と協力し、考え、教え合いながら課題の解決に向けた方法を見つける。
	基本型①		6	
7	基本型②		6	
8				
9	型の発表	3人チームの団体型練習	4	お互いの課題を確認し合ったり、練習方法をアドバイスする。
	ピンヤンの形		4	基本形で修得した技術を用いて、ピンヤンの形を覚える。仲間と協力しながら教えあう。
10				
11				
12				
1	ピンヤンの形の発表	3人以上でのチームを作り団体形	4	入場から形、退場までチームで協力しながら技を磨く。試合の審判も生徒が出来るようにする。
	これまでに修得した形を使い試合		5	
2				
3				

科名	保健体育	科目名	保健	単位数	1単位
対象学年	第2学年(全)		履修形態	必修	
科目の目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。				
学習内容の概要	<p>現代社会と健康</p> <p>① 健康の考え方と成り立ち</p> <p>② 私たちの健康のすがた</p> <p>③ 生活習慣病の予防と回復</p> <p>④ がんの原因と予防</p> <p>⑤ がんの治療と回復</p> <p>⑥ 運動と健康</p> <p>⑦ 食事と健康</p> <p>⑧ 休養・睡眠と健康</p> <p>⑨ 喫煙と健康</p> <p>⑩ 飲酒と健康</p> <p>⑪ 薬物乱用と健康</p> <p>⑫ 精神疾患の特徴</p> <p>⑬ 精神疾患の予防</p> <p>⑭ 精神疾患からの回復</p> <p>⑮ 現代の感染症</p> <p>⑯ 感染症の予防</p> <p>⑰ 性感染症・エイズとその予防</p> <p>⑱ 健康に関する意思決定・行動選択</p> <p>⑲ 健康に関する環境づくり</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>定期考査</p> <p>① 知識・技能 ……授業を通して、自らが健康的に生活できる能力を養う</p> <p>② 思考・判断 ……健康寿命を伸ばす要因が何かを考え、健康的な生活を送れる思考や判断が出来るようになる。様々な健康被害について理解する。</p> <p>③ 主体的に取り組む態度 ……様々な健康問題に対して、自己の生活と比べ、改善点を見つける</p>				
学習方法	<p>教科書の解説とノートの演習</p> <p>グループ学習・・・テーマについて考え、意見交換。</p> <p>ビデオ学習</p>				
教科書・教材等	教科書『現代高等保健体育』(大修館書店)				

年間授業計画

項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
1 単元 現代社会 と健康	①現代社会と健康	2	健康の考え方やその保持増進の方法は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って、変わってきており、健康に関する個人の適切な意思決定や行動選択が重要となっていることを理解する。また、わが国や世界では、様々な保健活動や対策などが行われていることを理解する。
	②私たちの健康のすがた	2	
	③生活習慣病の予防と回復	2	
	④がんの原因と予防	2	
	⑤がんの治療と回復	2	
	⑥運動と健康	2	
	⑦食事と健康	2	
	⑧休養・睡眠と健康	2	
	⑨喫煙と健康	2	
	⑩飲酒と健康	2	
	⑪薬物乱用と健康	2	
	⑫精神疾患の特徴	2	
	⑬精神疾患の予防	2	
	⑭精神疾患からの回復	2	
	⑮現代の感染症	2	
	⑯感染症の予防	2	
	⑰性感染症・エイズとその予防	2	
	⑱健康に関する意思決定・行動選択	2	
	⑲健康に関する環境づくり	2	

教科名	芸術	科目名	音楽 I	単位数	2 単位
対象学年	第 1 学年 (全)		履修形態	選択	
科目の目標	<p>音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけるようにする。</p> <p>(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。</p> <p>(3) 主体的・協同的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていくという態度を養う。</p>				
学習内容の概要	<p>A 表現 歌唱・器楽・創作・鑑賞の 4 部門を学習する。器楽では、アルトリコーダー、和楽器（篠笛）を使って合奏することにより生まれる音楽の立体感を楽しむとともに、美しい響きを創るための演奏の仕方を工夫する。 創作については、グループ活動で篠笛のお囃子の即興演奏を創作する。</p> <p>B 鑑賞 我が国の伝統音楽や世界の諸民族の音楽の種類と特徴を感受し、楽曲の歴史的背景の理解とともに様々な音楽を鑑賞する。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>① 評価の観点は、評価の観点は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習する態度」の 3 項目とする。この 3 点について 3 段階(A・B・C)で評価し、3 観点の評価から総合的に評定する。</p> <p>② 評価の観点の 3 項目について、生徒の良い点や努力している状況の評価し、出席状況によりまとめる。</p> <p>③ 評価方法は单元ごとの実技テスト・提出物・学習活動の参加状況・出席状況により総括して評価する。</p>				
学習方法	<p>個別の実技指導と生徒全員による合唱、合奏を行い、楽しく音楽に関わりあいながら、音楽について総合的な理解を深めるとともに、表現活動、鑑賞活動を行う。</p>				
教科書・教材等	教科書	MOUSA 音楽 I (教芸)			
	副教材	篠笛教本 (基礎編)			
	楽器	アルトリコーダー、篠笛			

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	歌唱Ⅰ	・校歌	6	・元気よく歌い、校歌を覚える。 ・発声の基本を習得し、歌うことの楽しさを感じ取る。
5		・世界の歌曲	8	・曲想を考えた音楽表現を工夫することができる。
6	器楽Ⅰ	・実技試験（歌唱）		・「Ave Maria」（カッチーニ作曲）
6	器楽Ⅰ	・アルトリコーダー導入	8	・正しい指使いと、美しい音色を意識しながら演奏できる。
		・アルトリコーダーの二重奏		・相手の音を聞きながら演奏することができる。 ・伴奏に合わせて、ハーモニーを感じながら演奏できる。
7	鑑賞Ⅰ	・「ピアノの歴史」「ピアノ作品」	6	・楽器（ピアノ）の構造と歴史、魅力について理解し、音楽表現を味わうことができる。
	歌唱Ⅱ	・日本の歌曲	2	・歌詞が表す情景を思い浮かべて歌うことができる。 ・旋律と歌詞の結びつきを感じながら表現できる。
8				
9	器楽Ⅱ	・篠笛（和楽器）	8	・篠笛が吹けるようになる。 ・篠笛の楽譜を知る。 ・日本音楽の独特の演奏方法を感じ取る。
	創作Ⅰ	・「祭り囃子」	8	①グループで「祭り囃子」を演奏し、中間に短いフレーズを即興表現する。
10		・演奏の発表		②全員が演奏できるようになる。 ③グループごとに発表し鑑賞し合う。 （お互いの演奏を批評できるようになる） ④篠笛の楽譜に記録する。
11			8	・全体の活動を通して、曲の構成方法・形式を理解することができる。
	鑑賞Ⅱ	・ミュージカル作品	6	・身近な作品を通して、ミュージカルに興味を持つ。 ・劇中音楽の多彩な感情表現を感じ取る。
12				
	楽典	・長音階	6	・長音階について理解し、楽譜することができる。
1				
			8	
2	歌唱Ⅲ	・合唱曲		・美しい響きを味わい、楽しみながら意欲的に表現できる。 ・卒業式の歌「群青」
3	まとめ	1年間のまとめ	6	

教科名	芸術	科目名	美術 I	単位数	2単位
対象学年	第1学年(全)		履修形態	選択	
科目の目標	<p>美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>				
学習内容の概要	<p>A 表現</p> <p>(1) デザイン、彫刻、絵画、工芸といった表現を含む複合的な課題を通して、主題の生成から表現の確認及び完成に至る全過程を通して、美術の総合的理解と、創造的な表現を培う。</p> <p>(2) 美術の授業を通して、基礎的な技量を身に付け、表現形式の選択及び作品を具現化するための作業計画など、構想する力を育み、意図に応じた創造的で多様な表現方法を工夫する力を養う。</p> <p>B 鑑賞</p> <p>(1) 日本の絵画、海外の絵画を鑑賞し様々な表現方法やよさがあることを理解するとともに、自由な発想で独自の観点から絵画の楽しさを学ぶ。</p> <p>(2) 美術史にそって、現代美術まで国内外の作品を鑑賞し、美術史とその背景にある歴史や作者の意図について理解する。</p>				
評価の観点・評価の方法	<p>評価の観点</p> <p>① 創造にあたっての知識・技能 創造的な美術の表現をするために必要な知識・技能を身に付け、表現方法を工夫して表しているか。</p> <p>② 発想や構想の能力・鑑賞の能力 美術の創造活動の喜びを味わい、感性や創造力を働かせて、主題を生成し、創造的な表現の構想を練っているか。美術や美術文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっているか。</p> <p>③ 学習に主体的に取り組む態度 美術や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとしているか。</p>				
学習方法	個別の実技指導を中心に、生徒全員による作品の鑑賞を行い、楽しく美術にかかわりあいながら、美術について総合的な理解を深めるとともに、表現活動、鑑賞活動を行う。				
教科書・教材等	教科書 高校生の美術1(日本文教出版)				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	鉛筆デッサン (基礎)	美術においてすべての基本となる、最も重要な鉛筆デッサンについて学ぶ。	6	表現について鉛筆デッサンの特性（立体感や遠近感・質感・空間などの表現は色を用いない鉛筆デッサンにおいて鉛筆の濃淡で作る明度の差や鉛筆の持ち方によるものということ）を理解する。
5		グラデーションや質感・立体感を鉛筆の濃で表現する。	8	<ul style="list-style-type: none"> 鉛筆デッサンで大切な点を学び、要点をおさえているか。 鉛筆の性質を理解し、使い分けた表現ができているか。
6	鉛筆デッサン (応用)	基礎をおさえ、実際に身近なものをモチーフに鉛筆デッサンを描く。	8	<p>形を冷静に捉え、画面の構成や余白を全体的にみることが出来る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 表現の応用ができているか。 形をよく観察し捉えているか。
7	静物画	これまでに学んだデッサンに基礎や色の特性、表現技法、様々な絵画の表現などを踏まえた制作をする。	6	表現方法・画材の選択及び作品を制作する作業計画、画面を構成する力を育み、自らの意図に応じた創造的で多様な表現方法を工夫する。
8		加えて、画面の構成について学び、自らの作品を鑑賞し、作品制作の意識を高める。	2	表現方法や画材の特性を理解する。
9		水彩絵の具やアクリル絵の具の特性を知り、作品に適した画材・技法を選び制作する。	8	<ul style="list-style-type: none"> 自らの意図に応じた表現・工夫ができているか。 意図をもって表現技法・画材を選択できているか。
10			8	<ul style="list-style-type: none"> 自らの作品を客観的に鑑賞し、画面の構成を意識的なものにできているか。 作品の目標を自ら定め、完成までの過程を計画し、取り組むことができているか。
11	彫刻	立体木彫りで制作する。主題を設定し、主題から形を起こし、デッサンを繰り返し行うことで形を明瞭にしていく。	8	<p>主題を掘り下げて考え、感情など形のないものを具現化するために構想を練る。</p> <p>可視できないものの形を想像することによって補い、彫刻的なものの見方を養う。</p>
12		彫刻刀、切り出しを使い木を彫りだしていく。	6	<p>素材の特性を理解し、自ら求める形に到達するための道具選びや、制作計画をする</p> <ul style="list-style-type: none"> 主題を明確に設定できているか。 多方向からのデッサンに矛盾はないか。 彫刻刀や切り出しを正しく扱えているか。 作品を最後まで計画的に彫り上げているか。
1	鑑賞	国内外の美術作品を、美術史に沿って現代作品まで、視聴覚資料を見ながら学ぶ。	6	美術史とその背景にある歴史や、作者の意図について理解する。
2			8	歴史や時代の思想が美術史に影響を与えていることを理解する。
3			6	

教科名	芸術	科目名	書道 I	単位数	2単位
対象学年	第1学年(全)		履修形態	選択	
科目の目標	<p>書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化に幅広くかかわる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけるようにする。</p> <p>(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>				
学習内容の概要	<p>A 表現</p> <p>(1) 漢字仮名交じりの書 漢字と仮名の調和した線質の表し方や、文字の大きさと全体の構成を工夫する。</p> <p>(2) 漢字の書 古典に基づく基礎的な点画や線質の表し方を理解し、その用筆・運筆の技法を習得する。字形の構成を理解し、全体の構成を工夫する。</p> <p>(3) 仮名の書 古典に基づく基礎的な点画や線質の表し方を理解し、その用筆・運筆の技法を習得する。単体、連綿の技法を習得し、全体の構成を工夫する。</p> <p>B 鑑賞 日常生活における書への関心を高め、その効用を理解する。日本及び中国等の文字と書の伝統と文化を理解し、書的美しさと表現効果を味わう。</p>				
評価の観点・評価の方法	<p>A 評価の観点</p> <p>(1) 創造的な書表現の知識・技能 書の知識、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。</p> <p>(2) 書表現の構想と工夫・鑑賞の能力 書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら表現を工夫している。書の伝統と文化について幅広く理解し、書的美しさを味わっている。</p> <p>(3) 書の学習を主体的に取り組む態度 書の伝統と文化に関心を持ち、主体的に創造的活動に取り組もうとする。</p> <p>B 評価方法</p> <p>(1) 「学習活動への参加状況と態度」「作品の制作」「学習記録・自己評価記録」で評価する。</p>				
学習方法	<p>(1) 書の古典を生徒の書写能力に沿って選択し臨書学習をする。</p> <p>(2) 書の伝統と文化に関心を持つため、文字文化に関する学習をする。</p> <p>(3) 日常生活の書の効用を理解したり、鑑賞による書的美しさを理解するため、書道展を鑑賞したりする。</p>				
教科書・教材等	<p>教科書 「書I」(光村図書)</p> <p>教材 各種拓本・有名書道家や生徒の書作品</p> <p>書道用具 筆・半紙・墨は共同購入して指導する。</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	はじめに	・中学で学習した書写の基本的な事項を確認する。	6	・中学で学習した書写について振り返る。
5	①書道の世界にふれよう	・書写と書道の共通性と書道の性格を理解する。		・書写と書道の共通性と書道の性格を理解する。
	②表現の違いを知ろう	・地場産業と書道との関わりを理解し、用具と用材に関心を持つ。		・地場産業と書道との関わりを理解し、用具と用材に関心を持つ。
6	①楷書を学ぼう	・基本的な姿勢や執筆や用具用材を学ぶ。	8	・姿勢と執筆法を理解する。
7	「孔子廟堂碑」	・古典の臨書の大切さを学ぶ。		・紙、墨、用筆による表現の違いを理解する。
	「九成宮醴泉銘」	・初唐の三大家と唐の四大家の書道史上の要点を学ぶ。	8	・書道の主な学習が、古典を学ぶことであり、臨書の意味を理解する。
	「雁塔聖教序」	・臨書学習により、四大家の特徴のある基本的な点画の用筆と運筆を学ぶ。	8	・歴史と文字との関わりを理解する。
	「顔氏家廟碑」			・初唐の三大家と唐の四大家を理解する。
8				・「孔子廟堂碑」「九成宮醴泉銘」「雁塔聖教序」「顔氏家廟碑」の各古典の要点と表現の特徴を理解し、臨書作品を制作する。
9	②行書を学ぼう	・王羲之と「蘭亭序」について書道史上の要点を学ぶ。	8	・行書体の特徴を確認する。
	「蘭亭序」			・王羲之の書道史上の要点を理解する。
				・「蘭亭序」の逸話等を通して、書道史上の要点を理解し、文字文化を継承する人類の英知を理解する。
10	「風信帖」	・空海と「風信帖」について書道史上の要点を学ぶ。	8	・「蘭亭序」の臨書作品を制作する。
				・空海の人と歴史上の要点を理解する。
				・「風信帖」の特徴を理解し、臨書作品を制作する。
11	③暮らしの中の書	・硬筆の書き方を学ぶ。	8	・漢字の筆順と部首を理解する。
		・硬筆書写検定実施		・縦書きと横書きについて理解する。
12				・楷書と行書の文章の書き方の違いを理解する。
	④仮名の書に親しもう	・仮名の成立と変遷を学ぶ。	6	・仮名の成立の歴史を理解する。
1		・仮名の美しさと、正しい字形を学ぶ。	6	・仮名と片仮名の字母を理解する。
				・単体と連綿の書き方を理解する。
2	⑤漢字仮名交じりの書に親しもう	・漢字仮名交じりの書の表現を学ぶ。	8	・漢字と仮名の調和を理解する。
3		・作品鑑賞		・線質による表現の違いを理解する。
				・色紙に好きな言葉を用意し、作品制作する。
				・一年間学んだ事を整理する。

教科名	英語	科目名	英語コミュニケーションI	単位数	4単位
対象学年	第1学年（特別進学コース）		履修形態	必修	
科目の目標	英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの基礎的な能力を養う。				
学習内容の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文章を正しく理解し、概要・要点や書き手の意向なども読み取る能力の育成に重点を置く。 2. 各課の言語材料を、様々な場面で運用していくことのできる能力の育成に重点を置く。 3. 豊富な音読練習を行い、各課の言語材料を用いた発表ができる力を養う。 4. 語彙の増強、文法知識の蓄積などの基礎的な部分を重視するとともに、豊富な問題演習によって、大学受験に対応しうる力を養う。 				
評価の観点・ 評価の方法	<p>(1) 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文法事項を理解している。 ・話の概要や要点を聞き取る技能を身につけている。 <p>(2) 思考・表現・判断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的や場面、状況などに応じて、テーマについて必要な情報や概要を聞き取っている。 <p>(3) 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマについて、理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に話を聞こうとしている。 <p>3つの観点について、以下のものを材料として総合的に評価する。 出欠状況、学習態度、授業の準備、自己評価、提出物・ノート点検確認テスト、4回の定期考査</p>				
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各課で取り扱う題材について、背景資料などを用いて興味・関心を深める。 2. 中学既習事項の抜け漏れがないよう、基本的文法や語彙の定着を図る。 3. 音声教材を用い、ネイティブスピーカーの発音、イントネーション、スピードに慣れ、リスニング力を高める。 4. ペアワークによるQAなどの活動を通じて、相手に伝える力と聞き取る力を養う。また、各課ごとに本文を元にしたリテリングを行い、スピーキング力を高める。 5. 各課ごとに単元テストを行い、既習事項の定着度を確認する。 6. ワークブックを活用し、予習・復習の習慣化を図る。 7. 各課ごとにノートおよびワークブックを確認する。 8. ALTの授業を通して、英語の運用能力を高める。 				
教科書・教材等	Power On English Communication I（東京書籍） Power On English Communication I ワークブック（東京書籍） Power On English Communication I スタディノート（東京書籍） RepeaTalk（Chrombook 音声指導アプリ） 夢をかなえる英単語 新ユメタン1（アルク） アクシスジーニアス英和辞典（大修館書店）				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	中学のまとめ		12	中学校の復習、辞書指導
5	Lesson 1	Mt. Fuji—A Symbol of Japan 日本の象徴, 富士山	16	[言語材料] 動詞の現在形・過去形 / 未来表現 / 進行形 [言語の働き] 予定を述べる / 感想を述べる
6	Lesson 2	Sleep in Animals 動物の睡眠	16	[言語材料] 比較表現 / 不定詞 / 動名詞 [言語の働き] 重要だと思ふものを述べる / 比較する / 意見や感想を述べる
7	Lesson 3	Nagatomo Yuto—A Long Hard Road to Success サッカー, 長友佑都選手	16	[言語材料] 現在完了形 / S+V+O [=that 節] / 受け身 [言語の働き] 経験を述べる / 願望を述べる / 意見や感想を述べる
8	Lesson 4	<i>Kawaii</i> and Japanese Pop Culture 世界に広がるカワイイ文化	16	[言語材料] It is[was]+形容詞+to 不定詞 / 助動詞 / 関係代名詞 [言語の働き] 知っていることを述べる / 説明する / 意見や感想を述べる
9				
10	Lesson 5	Banana Paper バナナペーパー	16	[言語材料] 分詞の形容詞用法 / S+V[=be 動詞以外]+C / S+V+O+C[=形容詞] [言語の働き] 感情を伝える / 説明する / 意見や感想を述べる
11	Lesson 6	A Story about Instant Noodles インスタントラーメン 誕生物語	16	[言語材料] S+V[=知覚動詞]+O+C[=現在分詞] / 助動詞+受け身 / S+V[=使役動詞]+O+C[=原形不定詞] [言語の働き] 自分が見たことを述べる / 意見や感想を述べる
12	Lesson 7	The Earth, Our Home! 国際宇宙ステーションでの経験と地球への思い	12	[言語材料] S+appear(s)[seem(s)]+to 不定詞 / 関係副詞 where / It is[was]+形容詞[名詞]+that 節 [言語の働き] 行きたい場所を述べる / 意見や感想を述べる
1	Lesson 8	Mr. Fija and <i>Uchinaaguchi</i> 危機に瀕する言語の保存・継承活動	12	[言語材料] 現在完了進行形 / 関係副詞 when / 仮定法過去 [言語の働き] 仮定する / 意見や感想を述べる
2	Lesson 9	The Power to Unite People 南アフリカ共和国, マンデラ大統領	16	[言語材料] 過去完了形 / 未来進行形 / 分詞構文(現在分詞) / 強調構文 [言語の働き] 強調する / 意見や感想を述べる
3	Lesson 10	Carving for the Future 世界遺産, サグラダ・ファミリア	12	[言語材料] 関係代名詞の非制限用法 / S+V+O+C[=過去分詞] / 関係代名詞 what [言語の働き] 将来なりたいものを述べる / 順位を表す / 意見や感想を述べる

教科名	英語	科目名	英語コミュニケーション I	単位数	3単位
対象学年	第1学年（進学キャリアコース）		履修形態	必修	
科目の目標	1. 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 2. 英語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。				
学習内容の概要	1. 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。 2. 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。 3. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。 4. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。				
評価の観点・ 評価の方法	(1) 知識・技能 ・文法事項を理解している。 ・必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができる。 (2) 思考・表現・判断 ・必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができる。 ・あるテーマについて、情報や考え、気持などを、根拠を明確にしながら話して伝え、論理的に書いて伝えている。 (3) 主体的に学習に取り組む態度 ・話し手に配慮しながら、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 ・あるテーマについて、情報や考え、気持などを、根拠を明確にしながら主体的に書こうとしている。 3つの観点について、以下のものを材料として総合的に評価する。 出欠状況、学習態度、授業の準備、自己評価、提出物・ノート点検確認テスト、4回の定期考査				
学習方法	1. 各課で取り扱う題材について、背景資料などを用いて興味・関心を深める。 2. 本文の概要、要点などを的確に捉えながら、正しく読みとっていく力を養う。 3. 音声教材を用い、ネイティブスピーカーの発音、イントネーション、スピードに慣れ、リスニング力を高める。 4. 発音やイントネーションを意識しながら音読練習を行う。また、ペアワークによる音読を通して、相手に伝える力と聞き取る力を養う。 5. 各課ごとに本文の内容をリテリングする簡単な発表を行う。 6. 各課ごとに単元テストを行ない、既習事項の定着度を確認する。 7. ワークブックを活用し、予習・復習の習慣化を図る。 8. ALTの授業を通して、英語に慣れるとともに英語の運用能力を高める。				
教科書・教材等	Amity English Communication I（開隆堂） Amity English 準拠ワークブック（開隆堂） RepeaTalk（ChromeBook 音声指導アプリ） 補助プリント 夢をかなえる英単語新ユメタン Jr.（アルク）				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	GET READY 1~4	Lesson に入る前のウォームアップ	9	・数字, 文字, 品詞 質問する, 共感する/学校での学習や活動, 地域での活動
5	Lesson 1	The Beautiful Scenery	12	・be 動詞・一般動詞の現在形 お気に入りの場所についてやり取りしたり, まとめたものを発表したりする。
6	Lesson 2	My Best Friend		・be 動詞・一般動詞の過去形 日常生活についてやり取りしたり, 大切にしている人についてまとめて発表したりする。
7	Lesson 3	Love for Dance	12	・進行形/助動詞 コンピュータの使い方や得意なことについてやり取りしたり, 写真についてまとめて発表したりする。
8	FOCUS+ 1			・be 動詞/一般動詞/進行形/助動詞 好きなスポーツ選手や好きな有名人についてやり取りしたり, 自己紹介したりする。
9	Lesson 4	Endangered Species	12	・不定詞 動物に関することについてやり取りしたり, 好きな生き物についてまとめて発表したりする。
	Lesson 5	The History of Chocolate	12	・動名詞 健康や空いた時間についてやり取りしたり, 写真を参考にし, 自分の考えをまとめて発表したりする。
10	Lesson 6	Our School	12	・比較 (原級・比較級・最上級) 好きな教科や描かれたイラストについてやり取りしたり, 学科やクラブについてまとめて発表したりする。
	FOCUS+ 2			・不定詞/動名詞/比較 好きな音楽や日常生活で楽しんでいることなどについてやり取りする。
11	COMMUNICATE+1 Lesson 7	Serendipity	12	買物の場面で, 客と店員とのやり取りをする。 ・現在完了 相手の生活面や経験などについてやり取りしたり, セレンディピティについてまとめて発表したりする。
12	Lesson 8	Sapeurs	9	・受動態 服装や平和のシンボルについてやり取りしたり, 大切なものについてまとめて発表したりする。
1	Lesson 9	Special Makeup Effects	9	・分詞の形容詞的用法 好きな俳優や映画についてやり取りしたり, それらをまとめて発表したりする。
2	Lesson 10	Clean Water	12	・関係代名詞 好きな飲み物や平和に寄与した有名人, 将来の夢などについてやり取りしたり, 水分の摂り方についてまとめて発表したりする。
3	FOCUS+ 3		9	・現在完了/受動態/分詞/関係代名詞/関係副詞/仮定法 メールの内容やお気に入りの写真についてまとめて発表したり, 「どこでもドアがもしあったら」というテーマでやり取りしたりする。
	COMMUNICATE+2 tupera tupera			道案内をする。 絵本の内容やおもしろかった点などについて, やり取りする。

教科名	英語	科目名	論理表現 I	単位数	2 単位
対象学年	第 1 学年（特別進学コース）		履修形態	必修	
科目の目標	<p>多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文脈にあった質問や答えを続けることで、情報や考え、気持ちなどを、やり取りを通じて伝え合うことができる。 2. 論理の構成や展開を工夫することで、情報や考え、気持ちなどを、話して伝えることができる。 3. 論理の構成や展開を工夫することで 				
学習内容の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「やり取り」「発表」「書くこと」の3領域の育成に適した日常的・社会的な場面の活動を通じて、本物のコミュニケーション力を育成する。 2. 失敗することを恐れず、発信する態度を養う。 3. 「まねる」から一歩踏み出し、テーマを「自分ごと化」して考え、発信できる力を育む。 4. ICT機器を用いて、教室だけでなく家庭でも音声や動画を活用した学習を行う。 				
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・技能 学習した語彙、表現、文法について理解を深め、それを適切に運用して自分の考えや気持ちを表現する技能を身につけている。 2. 思考・判断・表現 日常的な場面や社会的な話題について、話し手や書き手の考えを理解し、情報を整理しながら自分の考えをまとめ、即興や臨機応変にコミュニケーションを図る。 3. 主体的に学習に取り組む態度 知識や技能を主体的に身につけようと努力したり、活動の中で思考力・判断力・表現力を身につけようと粘り強く取り組んだり、自ら学習方法を改善しようとしている。 <p>評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中に生徒の言語活動の取り組み状況を観察する。(思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度) 2. Model の内容理解を確認する。(知識・技能、思考・判断・表現) 3. Make Your Own への取り組みを評価する。(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度) 4. 小テスト、定期考査(知識・理解) 5. ノート、WORKBOOK, Grammar Book の内容や提出状況(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度) 				
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中学校の既習事項の抜け・漏れがないか、確認しながら授業を進める。 2. 英語での発信に、ペアやグループで取り組むことで、自らの英語力を把握し、コミュニケーションへの関心・意欲を喚起する。 3. 語彙や表現の支援をしながら、言語活動が「自分ごと化」するように促す。 4. 各課の最終タスクにおいて「やり取り」「発表」「書くこと」を通じて、自らの発信力の上達を実感できるよう工夫する。 5. 文法問題の演習を通じて、学習した表現の運用に必要な文法力を身につける。 				
教科書・教材等	<p>NEW FAVORITE English Logic and Expression（東京書籍） NEW FAVORITE English Logic and Expression WORKBOOK（東京書籍） NEW FAVORITE English Logic and Expression English Grammar（東京書籍） 総合英語 One（アルク） 夢をかなえる英単語 新ユメタン1（アルク）</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	英語で表現するには	主語, 動詞, 文構造, 疑問文と否定文, 日本語の言い換え, 品詞, 句と節	6	主語, 動詞, 文構造などについて理解し, やさしい日本語に言い換える技能を身につけている。
5	Unit 1 Lesson 1 初めての食事	留学先で初めての食事の場面	8	褒める, 勧める, 断るときの表現を理解し, それを運用して自分の考えを表現する技能を身につけている。
	Unit 1 Lesson 2 道に迷う	道に迷った・道を案内する場面		提案する, 依頼する, 道順を説明するときの表現を理解し, それを運用して自分の考えを表現する技能を身につけている。
6	Unit 1 Lesson 3 人物紹介	身近な人を紹介するスピーチ	8	身近な人を紹介する, 相手の注意を引く表現を理解し, それを運用して自分の考えを表現する技能を身につけている。
	Unit 1 Lesson 4 体調が悪い	体調をめぐるやり取りの場面		体調を伝える, 体調を尋ねる, 指示・アドバイスをする表現を理解し, それを運用して自分の考えを表現する技能を身につけている。
	Unit 1 Lesson 5 買い物	買い物の場面		描写する, 相づちを打つときの表現を理解し, それを運用して自分の考えを表現する技能を身につけている。
7	Unit 1 Lesson 6 行ってみたい場所	行ってみたい場所	8	希望を述べる, 理由を述べるときの表現を理解し, それを運用して自分の考えを表現する技能を身につけている。
8	Unit 1 Lesson 7 イベントに誘われる	イベントに誘ったり, 誘われたりする場面		誘う, 誘いを受ける, 誘いを断るときの表現を理解し, それを運用して自分の考えを表現する技能を身につけている。
9	Unit 1 Lesson 8 スクールカウンセラーに相談	スクールカウンセラーとやり取りをする場面	8	状況を説明する, 手助けを申し出る. 助言・提案をする, 感謝を伝える表現を理解し, それを運用して自分の考えを表現する技能を身につけている。
	Unit 1 Lesson 9 お気に入りを紹介	自分のお気に入りを紹介するスピーチ		映画などのあらすじを要約する, 登場人物を紹介する, 感想を述べるときの表現を理解し, それを運用して自分の考えを表現する技能を身につけている。
10	Unit 1 Lesson 10 待ち合わせに遅刻	待ち合わせに遅刻した時の場面	8	謝る, 許す, 励ますときの表現を理解し, それを運用して自分の考えを表現する技能を身につけている。
	Unit 1 Lesson 11 家庭でのディスカッション	家庭内で身近な社会問題についてディスカッションする場面		共感を述べる, 残念な気持ちを述べる, 解決策を提案するときの表現を理解し, それを運用して自分の考えを表現する技能を身につけている。
	Unit 1 Lesson 12 英字新聞に投稿	学校の英字新聞に投稿する記事のライティング		要望や主張を述べる, 理由を述べるときの表現を理解し, それを運用して自分の考えを表現する技能を身につけている。
11	Unit 2 Lesson 1 クラスでディベート①	電子書籍と紙の書籍に関してディベートをする場面	8	理由を述べる, 例を挙げるときの表現を理解し, それを運用して自分の考えを表現する技能を身につけている。
	Unit 2 Lesson 2 クラスでディベート②	電子書籍と紙の書籍に関してディベートをする場面		相手の意見に反駁する, 相手の意見を引用するときの表現を理解し, それを運用して自分の考えを表現する技能を身につけている。
12	Unit 2 Lesson 3 経験談のスピーチ	自らの子どもたちの体験についてのスピーチ	6	できごとを生き生きと描写する, 経験からアドバイスをするときの表現を理解し, それを運用して自分の考えを表現する技能を身につけている。
1	Unit 2 Lesson 4 遊びやスポーツを紹介	オリエンテーリングのルールや手順を紹介するスピーチ	6	ルールや手順を順序立てて説明する, 利き手や読み手の知識に合わせて説明するときの表現を理解し, それを運用して自分の考えを表現する技能を身につけている。
	Unit 2 Lesson 5 日本をPR	日本の文化をPRするスピーチ		事実と意見を区別して述べる, 文化や習慣を説明するときの表現を理解し, それを運用して表現する技能を身につけている。
2	Unit 2 Lesson 6 物語の両面を伝える	兄弟姉妹とのルームシェアについてのライティング	8	利点と欠点を述べる, 話題を発展させる, 話題を変えるときの表現を理解し, それを運用して自分の考えを表現する技能を身につけている。
	Unit 2 Lesson 7 読み手を納得させる	外国映画の見方についてのライティング		自分の主張の理由・根拠を説明する, 理由を要約して述べるときの表現を理解し, それを運用して自分の考えを表現する技能を身につけている。
3	Unit 2 Lesson 8 読み手を説得する	海外に行くことについてのライティング	6	人の発言を直接引用する, 条件を出して意見を述べる, 説得するときの表現を理解し, それを運用して自分の考えを表現する技能を身につけている。

教科名	外国語	科目名	論理表現 I	単位数	2 単位
対象学年	第 1 学年（進学キャリアコース）		履修形態	必修	
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。				
学習内容の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 さまざまな場面のダイアログやモノログを聞き、英語表現を学ぶ。 2 レッスンで学習する文構造・文法を学びながら、語彙を増やす。 3 単語の発音、英文の音読練習に重点を置く。 4 レッスンで学習したことを自分で書いたり話したりする内容を主体的に考える力を養う。 5 英語と日本語の違いを学び、英語特有の表現を身に付ける。 				
評価の観点・ 評価の方法	<p>(1) 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文法事項を理解している。 ・話の概要や要点を聞き取る技能を身につけている。 <p>(2) 思考・表現・判断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的や場面、状況などに応じて、テーマについて必要な情報や概要を聞き取っている。 <p>(3) 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマについて、理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に話を聞こうとしている。 <p>3つの観点について、以下のものを材料として総合的に評価する。 出欠状況、学習態度、授業の準備、自己評価、提出物・ノート点検確認テスト、4回の定期考査</p>				
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な文法事項や構文をノートに整理・復習し、演習問題で発展学習をする。 2 ワークシート・補充プリント・ワークブックを通して、重要な学習事項の確認と定着を図る。 3 音読を通して、英語に親しみ、語彙力と英語表現力を高める。 4 学習事項をノートにまとめ、学習の定着を図る。 5 予習・授業・復習の重要性を理解し、日々、英語に触れる時間を確保する。 6 小テスト・各種テストの見直しを丁寧に行ない、次の学習につなげる。 				
教科書・教材等	<p>Amity（開隆堂） 準拠 ワークブック 補助プリント 夢をかなえる英単語 新ユメタン Jr.（アルク）</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4	Lesson1	自己紹介をしよう	6	・現在形	
5	Lesson2	昨日何をした？	8	・過去形	
	Lesson3	今、何してる？		・現在進行形・過去進行形	
6	Lesson4	花粉症ってつらい？	8	・未来を表す表現 will と be going to	
	Lesson5	手伝ってくれる？		・助動詞 can と may	
7	Lesson6	浅草寺に行こう	8	・助動詞 must と should	
8	Lesson7	漢字を学ぶ秘訣		・現在完了形（完了・結果）	
9	Lesson8	秋葉原ってすごい！	8	・現在完了形（継続）、過去完了進行形	
10	Lesson9	お手製のパン	8	・受動態	
	Lesson10	ギネスに挑戦		・比較級・最上級	
11	Lesson11	大きなお弁当	8	・比較	
	Lesson 12	アイドル最高！		・動名詞	
12	Lesson13	備えあれば・・・	6	・to 不定詞（名詞的用法）	
	Lesson14	何に使うもの？		・to 不定詞（副詞的用法・形容詞的用法）	
1	Lesson15	あの子は誰？	6	・分詞	
	Lesson16	工場見学に行こう		・関係代名詞	
2	Lesson17	あの日の思い出	8	・関係代名詞 what	
	Lesson18	おすすめの旅行先		・関係副詞	
3	Lesson19	もしも私が・・・	6	・仮定法過去	
	Lesson20	おでかけするなら		・接続詞	

教科名	情報	科目名	情報 I	単位数	2 単位
対象学年	第 1 学年		履修形態	必修	
科目の目標	<p>情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>				
学習内容の概要	<p>情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 効果的なコミュニケーションの実現，コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに，情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。</p> <p>(2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。</p> <p>(3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに，情報社会に主体的に参画する態度を養う。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>【知識及び技能】 情報と情報技術についての知識と技能，情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法についての知識と技能を身に付けるとともに，情報社会と人との関わりについては，情報に関する法規や制度及びマナー，個人が果たす役割や責任等について，情報と情報技術の理解と併せて身に付ける。</p> <p>【思考力，判断力，表現力等】 情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ，さまざまな事象を情報とその結び付きの視点から捉え，複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだす力を養うとともに，問題を発見・解決する各段階で情報と情報技術を活用する過程を振り返り改善することで，情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 情報と情報技術を適切に活用することを通して，法規や制度及びマナーを守ろうとする態度，情報セキュリティを確保しようとする態度などの情報モラルを養い，これらを踏まえて情報と情報技術を活用することで情報社会に主体的に参画する態度を養う。 上記の 3 つの観点について 3 段階 (A・B・C) で評価し，3 観点の評価から総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>授業を大切にし、気づいたことや担当教員の話など、メモすることを習慣化すること 授業は常に問題意識をもち、積極的に取り組むこと</p>				
教科書・教材等	<p>図説 情報 I 実教出版 Python 入門 東京書籍</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	情報化の進展と情報技術	情報化による利便性と危険性について学ぶ。	3	情報社会における様々な問題点を理解した上で、情報モラルについて考え、自らの行動を振り返り、改善しようとしている。
5	情報社会と問題解決	問題解決の手順	3	問題解決の意味を理解し、問題解決の流れについて学ぶ。
		情報の収集と整理、分析	3	収集した情報を整理する方法(KJ法やコンセプトマップ等)について学ぶ 収集した情報を整理し、情報を効果的に分析するための適切な資料を作成し、考察することができる。
	コミュニケーションと情報デザイン	効果的なコミュニケーション	3	ネットワーク上のコミュニケーションのメリットとデメリットについて学ぶ。
		情報デザインの考え方	3	デザインの基本、色彩、ユニバーサルデザイン、アクセシビリティについて学ぶ
	情報とコンピュータ	数値の表現	2	2進数、16進数について学ぶ。
		動画の表現とファイル形式	2	動画の仕組みや動画圧縮の仕組みについて学ぶ。
		ハードウェアとソフトウェア	2	ハードウェアとソフトウェアの違い、五大装置・OSとアプリケーションソフトの関係について学ぶ。
	アルゴリズムとプログラミング	プログラムの基礎	8	プログラムと変数、配列とリスト、関数を使ってプログラムを作る。
	モデル化とデータの活用	モデル化	3	モデル化の手順や分類について学ぶ
		シミュレーション	3	シミュレーションの手順と注意点について学ぶ